

4 事業別達成状況

(1)基本目標1 子どもと親の豊かな健康づくりの推進

【網掛け】重点施策

【平成26年度未達成状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

1-(1) 子どもと親の健康の確保・増進

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度未達成状況	平成26年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	後期計画達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)					平成27年度以降の方向性	所管課
							実績評価		既存統計データ		年度		
1	母子保健地域組織育成事業	継続		D	実施なし	b	平成23年～25年度は保健推進員や健康づくりボランティアグループに対して、乳幼児の事故防止の研修を実施できた。	H23 保健推進員ブロック会議 3回 85人 H24 保健推進員ブロック会議 3回 90人 H25 やまぶき21定例会18人	H22 C H23 A H24 A H25 A H26 D 計	— — — — — 0	— — — — — 0	保健推進員等に対して、市の母子保健事業に関する情報提供をしていく。	健康づくり支援課
2	事故防止対策	継続	事故防止対策を実施している家庭の割合 100%	A	4か月児健診の会場で事故防止の周知とパンフレットの配付の他、公民館での子育てサロン等で事故防止に関する出前講座、広報等に事故防止の啓発記事の掲載等により、事故防止の周知を図った。	a	健診の会場や子育てサロン等で事故防止に関する出前講座を実施するほか、広報等に事故防止の啓発記事の掲載等により、事故防止の周知が図れた。	4か月健診受診児数 H22:2,590人 H23:2,961人 H24:2,708人 H25:2,921人 H26:2,652人 出前講座 H22:7回 406人 H23:2回 48人 H24:5回 50人 H25:6回 244人 H26:5回 170人	H22 A H23 A H24 A H25 A H26 A 計	— — — — — 0	— — — — — 0	健診・育児教室等で事故防止対策に関する啓発活動を行う。	健康づくり支援課
3	乳幼児健診	拡充	受診率(医療機関での受診率を含む) 100%	A	4か月、1歳6か月、3歳3か月児を対象に身体発育・精神発達面の健診を行った。 ・4か月児健診(48回) 受診者数2,652人 受診率94.0% ・1歳6か月児健診(48回) 受診者数3,039人 受診率96.4% ・3歳児健診(48回) 受診者数2,849人 受診率93.4%	a	4か月、1歳6か月、3歳3か月児を対象に身体発育・精神発達面の健診を行うことで、必要な支援を行うことが出来た。また、保健センターで実施する集団健診の未受診者に対しては医療機関での受診状況等の確認に努めている。	4か月児健診受診率 H22:95.4% H23:95.2% H24:94.3% H25:93.9% H26:94.0% 1歳6か月児健診受診率 H22:92.63% H23:96.3% H24:92.9% H25:92.9% H26:96.4% 3歳児健診受診率 H22:88.3% H23:89.8% H24:89.0% H25:91.2% H26:93.4%	H22 A H23 A H24 A H25 A H26 A 計	25,448 25,676 27,848 27,848 134,668	25,306 25,316 25,400 27,800 27,800 131,622	4か月、1歳6か月、3歳3か月児を対象に身体発育・精神発達面の健診を行う	健康づくり支援課
4	乳幼児相談	拡充		A	総合保健センター及び南文化会館において乳幼児を対象とした相談を実施した。	a	乳幼児相談を実施することで、保護者の育児不安の解消を図ることが出来た。	H22:31回 1,895人 H23:30回 1,599人 H24:30回 1,635人 H25:30回 2,059人 H26:30回 2,086人	H22 A H23 A H24 A H25 A H26 A 計	800 836 836 836 836 4,144	779 833 833 833 833 4,111	保健センター及び南文化会館において乳幼児を対象とした相談を実施する。	健康づくり支援課

5	電話による健康相談	継続		A	子どもと母の健康に関する専用ダイヤル「もしもし健康相談」で相談を実施した。(保健師、栄養士、歯科衛生士が対応)。また、不妊・更年期等の女性相談に助産師等が対応した。	a	電話健康相談を実施することで、必要な時に相談ができ早期に育児不安の解消は図れた。	もしもし電話相談 H22:881件 H23:551件 H24:461件 H25:349件 H26:281件 女性相談 H22:96件 H23:53件 H24:67件 H25:54件 H26:51件	H22 A 672 651 H23 A 672 672 H24 A 700 679 H25 A 700 679 H26 A 700 700 計 3,444 3,381	もしもし相談、女性相談を実施する。	健康づくり支援課
6	2歳児親子歯科健診	継続		A	2歳から2歳6か月児とその保護者を対象に歯科健診・歯科指導を実施した。	a	平成26年度よりフッ化物塗布を実施し、むし歯予防事業の充実が図れた。	H22:12回 児337人保護者264人 H23:12回 児363人保護者274人 H24:12回 児312人保護者244人 H25:12回 児236人保護者178人 H26:12回 児272人保護者191人	H22 A 1,545 1,495 H23 A 1,545 1,495 H24 A 1,545 1,495 H25 A 1,545 1,495 H26 A 1,545 1,495 計 7,725 7,475	2歳から2歳6か月児とその保護者を対象に歯科健診・歯科指導・おやつ講話、希望児へはフッ素塗布を実施する。	健康づくり支援課
7	幼児のむし歯予防推進事業	拡充		A	市内の、希望する保育園・幼稚園の5歳児クラスを対象にフッ化物洗口・健康教育を実施し、啓発事業として①研修会、②リーフレット・絵本・紙芝居を作成し、配布した。 更に、「幼児のむし歯予防推進事業」を企画、立案、評価、検討等を行うため、委員会を実施した。 また、事業内容をより充実させるため、検討会を実施した。	a	平成26年度より事業対象施設を拡大し、多くの市民に対しむし歯予防の啓発、歯と口の健康づくりの推進を図ることができた。今後は、更に実施施設数を増やせるよう、働きかけを行う必要がある。	会議・研修・関係機関との調整 H22 10回 H23 10回 H24 10回 H25 8回 H26 39回 保健指導 H22 100回 H23 100回 H24 100回 H25 134回 H26 123回 フッ化物洗口実施児童数 H22 791人 H23 833人 H24 810人 H25 391人 H26 1,280人	H22 A 3,264 3,263 H23 A 3,267 3,267 H24 A 3,267 3,280 H25 A 3,188 3,138 H26 A 4,600 4,600 計 17,586 17,548	市内の希望する保育園・幼稚園の5歳児クラスを対象にフッ化物洗口・健康教育を実施。啓発事業として、研修会、リーフレット、絵本、紙芝居を配布。会議等の実施と併せ、フッ化物洗口事業実施園の拡大を図る。	健康づくり支援課

8	乳幼児の予防接種	拡充	6か月までのBCG接種率 95% 1歳6か月までの三種混合、麻しん予防接種率 95%	A	広報・ホームページによる情報提供、健康づくりスケジュールの全戸配布等による予防接種の接種勧奨の他、麻しん風しん混合Ⅱ期未接種者に対して個別通知による接種勧奨を行った。 (H25以降は、三種混合に四種混合も含めた実績値)	a	全体として目標を概ね達成できた。ただし、ワクチン別にみると目標の接種率に達していないものもあるため、さらに周知等に工夫が必要である。	【接種者】 BCG H22:2,925人 100.48 % H23:2,717人 89.6 % H24:2,703人 88.88 % H25:2,808人 91.23 % H26:2,785人 100.14 % 三種混合(H25から四種混合を含む) H22:12,096人 103.84 % H23:12,312人 104.2 % H24:10,518人 94.04 % H25:12,484人 102.70 % H26:11,678人 101.55 % 麻しん風しん 1期 H22:2,834人 97.19 % H23:2,916人 96.2 % H24:2,952人 97.07 % H25:2,899人 99.04 % H26:2,922人 92.94 % 麻しん風しん 2期 H22:2,835人 95.19 % H23:2,730人 94.6 % H24:2,933人 97.21 % H25:2,892人 94.11 % H26:2,848人 91.81 % 麻しん風しん 3期(H24で事業終了) H22:2,789人 89.16 % H23:2,797人 88.5 % H24:2,852人 92.53% 麻しん風しん 4期(H24で事業終了) H22:2,438人 73.63 % H23:2,486人 76.0 % H24:2,101人 62.51% (接種対象者数については、標準的な接種年齢で積算)	H22: 233,870 H23: 229,610 H24: 231,570 H25: 107,975 H26: 229,800 計: 1,032,825	233,535 233,586 219,234 212,329 219,743 1,118,427	広報・ホームページによる情報提供、健康づくりスケジュールの全戸配布等による予防接種の接種勧奨の他、麻しん風しん混合Ⅱ期未接種者に対して個別通知による接種勧奨を継続して行う。	健康づくり支援課
9	産婦・新生児訪問指導	拡充	訪問率(こんには赤ちゃん事業を含む) 100%	A	出生連絡票・電話等により希望があった概ね2か月までの産婦・新生児に対して、助産師、保健師による訪問を実施した。(希望がなかった家庭には、4か月までにこんには赤ちゃん訪問を実施した)	a	出産後間もない時期であり、専門職が家庭訪問することで、早期のうちに育児不安の解消が図れた。また、訪問しても不在の家庭があるため、引き続き事業の周知や実施方法を検討していく必要がある。	H22:2,395件訪問 82.6% H23:2,429件訪問 84.7% H24:2,367件訪問 80.5% H25:2,341件訪問 79.3% H26:2,094件訪問 74.2%	H22: 11,111 H23: 10,821 H24: 10,821 H25: 10,821 H26: 10,821 計: 54,395	9,758 10,000 10,023 10,000 9,621 49,402	出生連絡票・電話等により希望があった概ね2か月までの産婦・新生児に対して、助産師、保健師による訪問を実施する。	健康づくり支援課
10	乳幼児訪問指導	拡充		A	訪問による指導が必要な母子に対して、保健師等による訪問指導を実施した。	a	支援が必要な家庭を訪問することで、家庭の状況に応じた支援を実施することができた。	H22:妊産婦 112件 乳幼児 217件 H23:妊産婦 155件 乳幼児 284件 H24:妊産婦 154件 乳幼児 278件 H25:妊産婦 178件 乳幼児 266件 H26:妊産婦 187件 乳幼児 318件	H22: 60 H23: 60 H24: 60 H25: 60 H26: 60 計: 300	60 60 60 60 60 300	訪問による指導が必要な母子に対して、保健師等による訪問指導を実施する。	健康づくり支援課

11	不妊に対する支援	継続	A	特定不妊治療を受ける夫婦を対象にその治療に要する費用の一部を助成した。不妊専門相談センターにおいて専門相談を実施した。	a	自費診療部分の一部助成を行うことで、経済的支援をすることができた。	特定不妊治療助成件数 H22:285件 H23:320件 H24:451件 H25:537件 H26:533件 相談件数 H22:13組 H23:14組 H24:22組 H25:20組 H26:20組	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>A</td><td>40,033</td><td>40,033</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>52,230</td><td>45,156</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>63,395</td><td>63,395</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>67,568</td><td>67,568</td></tr> <tr><td>H26</td><td>A</td><td>69,225</td><td>67,535</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>292,451</td><td>283,687</td></tr> </table>	H22	A	40,033	40,033	H23	A	52,230	45,156	H24	A	63,395	63,395	H25	A	67,568	67,568	H26	A	69,225	67,535	計		292,451	283,687	特定不妊治療を受ける夫婦を対象にその治療に要する費用の一部を助成する。不妊専門相談センターにおいて専門相談を実施する。	健康づくり支援課
H22	A	40,033	40,033																															
H23	A	52,230	45,156																															
H24	A	63,395	63,395																															
H25	A	67,568	67,568																															
H26	A	69,225	67,535																															
計		292,451	283,687																															
12	妊婦健康診査	拡充	A	妊婦に対し委託医療機関で健康診査を行った。委託医療機関での健診が受けられない妊婦を対象に健診費用の一部を助成した。	a	必要とされる健診回数及び、医学的検査の費用の一部を助成することで、妊婦健診の受診の勧奨、経済的不安の解消をすることができた。	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>一般健診14回のべ35,529人</td><td>262,594</td><td>245,030</td></tr> <tr><td>H23</td><td>一般健診14回のべ34,148人</td><td>283,081</td><td>250,111</td></tr> <tr><td>H24</td><td>一般健診14回のべ36,512人</td><td>269,748</td><td>269,748</td></tr> <tr><td>H25</td><td>一般健診14回のべ35,252人</td><td>259,172</td><td>259,172</td></tr> <tr><td>H26</td><td>一般健診14回のべ34,230人</td><td>263,000</td><td>256,571</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>1,337,595</td><td>1,280,632</td></tr> </table>	H22	一般健診14回のべ35,529人	262,594	245,030	H23	一般健診14回のべ34,148人	283,081	250,111	H24	一般健診14回のべ36,512人	269,748	269,748	H25	一般健診14回のべ35,252人	259,172	259,172	H26	一般健診14回のべ34,230人	263,000	256,571	計		1,337,595	1,280,632	妊婦に対し委託医療機関で健康診査を行う。委託医療機関での健診が受けられない妊婦に対しても、健診費用の一部助成を行う。	健康づくり支援課	
H22	一般健診14回のべ35,529人	262,594	245,030																															
H23	一般健診14回のべ34,148人	283,081	250,111																															
H24	一般健診14回のべ36,512人	269,748	269,748																															
H25	一般健診14回のべ35,252人	259,172	259,172																															
H26	一般健診14回のべ34,230人	263,000	256,571																															
計		1,337,595	1,280,632																															
13	両親学級	拡充	A	妊婦とその夫を対象に育児、栄養、歯科についての正しい知識を普及し、妊娠中の不安の解消と父親の育児参加を支援した。	a	妊娠期や出産後に必要な情報を提供する中で、妊娠中や産後の不安の解消が図れた。また、父親の育児参加の必要性の周知が図れた。	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>ブレパママスクール H22:5回 102組 200人 (夫再掲 98人)</td><td>25</td><td>16</td></tr> <tr><td>H23</td><td>H23:6回 129組 257人 (夫再掲126人)</td><td>19</td><td>19</td></tr> <tr><td>H24</td><td>H24:6回 129組257人 (夫再掲127人)</td><td>19</td><td>19</td></tr> <tr><td>H25</td><td>H25:6回 112組220人 (夫再掲109人)</td><td>19</td><td>19</td></tr> <tr><td>H26</td><td>H26:6回 93組181人 (夫再掲88人)</td><td>19</td><td>19</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>101</td><td>92</td></tr> </table>	H22	ブレパママスクール H22:5回 102組 200人 (夫再掲 98人)	25	16	H23	H23:6回 129組 257人 (夫再掲126人)	19	19	H24	H24:6回 129組257人 (夫再掲127人)	19	19	H25	H25:6回 112組220人 (夫再掲109人)	19	19	H26	H26:6回 93組181人 (夫再掲88人)	19	19	計		101	92	妊婦とその夫を対象に育児、栄養、歯科についての正しい知識を普及し、妊娠中の不安の解消と父親の育児参加を支援する。	健康づくり支援課	
H22	ブレパママスクール H22:5回 102組 200人 (夫再掲 98人)	25	16																															
H23	H23:6回 129組 257人 (夫再掲126人)	19	19																															
H24	H24:6回 129組257人 (夫再掲127人)	19	19																															
H25	H25:6回 112組220人 (夫再掲109人)	19	19																															
H26	H26:6回 93組181人 (夫再掲88人)	19	19																															
計		101	92																															
14	マタニティクッキング	継続	A	妊娠5か月以上の妊婦を対象に妊娠期及びその後の食生活をよりよくすることを目的に、講話を行った。	a	妊娠期からその後の続く栄養面の講話をすることで食育にたいする周知を図ることが出来た。	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>5回 40人</td><td>37</td><td>37</td></tr> <tr><td>H23</td><td>6回 60人</td><td>37</td><td>37</td></tr> <tr><td>H24</td><td>6回 61人</td><td>37</td><td>37</td></tr> <tr><td>H25</td><td>5回 39人</td><td>37</td><td>37</td></tr> <tr><td>H26</td><td>6回 32人</td><td>37</td><td>32</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>185</td><td>180</td></tr> </table>	H22	5回 40人	37	37	H23	6回 60人	37	37	H24	6回 61人	37	37	H25	5回 39人	37	37	H26	6回 32人	37	32	計		185	180	妊娠5か月以上の妊婦を対象に妊娠期及びその後の食生活をよりよくすることを目的に講話を行う。	健康づくり支援課	
H22	5回 40人	37	37																															
H23	6回 60人	37	37																															
H24	6回 61人	37	37																															
H25	5回 39人	37	37																															
H26	6回 32人	37	32																															
計		185	180																															
15	妊婦歯科健診	継続	A	妊娠5か月以上の妊婦と産後1年未満の産婦を対象に、歯科健診と歯科保健指導を実施した。	a	平成25年度より対象者を妊婦から妊産婦とし、必要とする対象者へ対しての事業展開が図れた。	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>妊婦歯科健診 H22:12回 113人</td><td>650</td><td>608</td></tr> <tr><td>H23</td><td>H23:12回 127人</td><td>650</td><td>600</td></tr> <tr><td>H24</td><td>H24:12回 122人</td><td>650</td><td>600</td></tr> <tr><td>H25</td><td>H25:12回 179人</td><td>650</td><td>600</td></tr> <tr><td>H26</td><td>H26:12回 170人</td><td>650</td><td>600</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>3,250</td><td>3,008</td></tr> </table>	H22	妊婦歯科健診 H22:12回 113人	650	608	H23	H23:12回 127人	650	600	H24	H24:12回 122人	650	600	H25	H25:12回 179人	650	600	H26	H26:12回 170人	650	600	計		3,250	3,008	妊娠5か月以上の妊婦と産後1年未満の産婦を対象とし、歯科健診・歯科保健指導を実施する。	健康づくり支援課	
H22	妊婦歯科健診 H22:12回 113人	650	608																															
H23	H23:12回 127人	650	600																															
H24	H24:12回 122人	650	600																															
H25	H25:12回 179人	650	600																															
H26	H26:12回 170人	650	600																															
計		3,250	3,008																															

16	母子栄養食品の支給	継続	E	低所得者の妊産婦及び乳児に対して粉ミルクを支給し、併せて健康状態、育児状況の把握、指導を行う。	e	社会情勢、他市の状況等を考慮し、23年度より新規受け付けを中止した。引き続き、両親学級、リーフレットの配付等で栄養指導を実施していく必要がある。	粉ミルクの支給 H22:妊婦3人 乳幼児14人 H23:乳児3人	H22: A 234 204 H23: A 260 59 H24: E - - H25: E - - H26: E - - 計 494 263	社会情勢、他市の状況等を考慮し、23年度より新規受け付けを中止した。引き続き、両親学級、リーフレットの配付等で栄養指導を実施する。	健康づくり支援課
17	離乳食教室	継続	A	月齢に応じた離乳食の進め方について教室を開催し、離乳食の講話と試食を行った。4～6か月対象、6～8か月対象	a	月齢や児に応じた離乳食の指導を行うことで、離乳食に関する知識の普及が図れた。	4～6か月対象 H22:12回 308組 H23:12回 308組 H24:12回 316組 H25:12回 369組 H26:12回 322組 6～8か月対象 H22:12回 272組 H23:12回 242組 H24:12回 238組 H25:12回 290組 H26:12回 294組	H22: A 150 150 H23: A 150 150 H24: A 150 150 H25: A 150 150 H26: A 150 150 計 750 750	月齢に応じた離乳食の進め方について教室を開催し、離乳食の講話と試食を行う。	健康づくり支援課
18	おやつと歯みがき教室	継続	A	2歳6か月～4歳未満の児とその保護者を対象におやつづくりの実習や講話を行い、おやつについての正しい知識の普及を図った。また、口腔内の手入れの仕方について指導を行った。	a	親子で一緒におやつ作りを体験することで食育への関心も高めることができ、口腔内の手入れの仕方の周知が図れた。	H22:12回 155組 H23:12回 114組 H24:12回 140組 H25:12回 131組 H26:12回 118組	H22: A 83 83 H23: A 75 75 H24: A 75 75 H25: A 75 75 H26: A 75 75 計 383 383	2歳6か月～4歳未満の児とその保護者を対象におやつづくりの実習や講話、歯科保健指導を行い、おやつについての正しい知識や口腔内のケアについての普及を図る。	健康づくり支援課
19	育児関連講座等への協力	拡充	A	公民館、育児サークル等からの依頼により保健師、栄養士、歯科衛生士が会場に出向き、それぞれのテーマに沿った内容の講義、実習等を実施した。	a	出前講座を実施することで、対象にあった健康面や育児に関する知識の普及が図れた。	出前講座開催回数 H22:7回 406人 H23:3回 63人 H24:5回 201人 H25:6回 244人 H26:5回 170人	H22: A - - H23: A - - H24: A - - H25: A - - H26: A - - 計 0 0	公民館、児童館、子育てサークル等からの依頼により保健師、栄養士、歯科衛生士が会場に出向き、それぞれのテーマに沿った内容の講義、実習等を実施する。	健康づくり支援課
20	未熟児・長期療養児訪問指導	拡充	A	訪問による指導が必要な未熟児・長期療養児世帯に対し、保健師等による訪問指導を実施した。	a	支援が必要な家庭を訪問することで、家庭の状況に応じた支援を実施することができた。	未熟児等訪問指導 H22: 73件 H23: 98件 H24: 85件 H25: 91件 H26: 121件	H22: A - - H23: A - - H24: A - - H25: A - - H26: A - - 計 0 0	訪問による指導が必要な未熟児・長期療養児世帯に対し、保健師等による訪問指導を実施する。	健康づくり支援課
21	小さく生まれた子どもを持つ親の会	継続	A	ひよこサロン(小さく生まれた子どもを持つ親の会)を開催し、親同士の交流の場として、育児不安の軽減を図った。	a	親の会を実施することで、親同士の交流を図ることができ、また、同じ不安をもつ保護者の育児不安の解消が図れた。	ひよこサロン H22:11回 のべ223人 H23:12回 のべ169人 H24:12回 のべ142人 H25:12回 のべ165人 H26:12回 のべ158人	H22: A 53 53 H23: A 50 50 H24: A 50 50 H25: A 50 50 H26: A 50 50 計 253 253	ひよこサロンを開催し、親同士の交流の場として、育児不安の軽減を図る。	健康づくり支援課
22	ダウン症のある子どもを持つ親の会	継続	A	いもっこの会(ダウン症のある子どもを持つ親の会)を開催し、親同士の交流の場として情報交換を実施した。	a	親の会を実施することで、親同士の交流を図ることができ、また、同じ不安をもつ保護者の育児不安の解消が図れた。	いもっこの会 H22: 9回 のべ94人 H23:11回 のべ88人 H24:11回 のべ96人 H25:12回 のべ51人 H26:11回 のべ60人	H22: A - - H23: A - - H24: A - - H25: A - - H26: A - - 計 0 0	いもっこの会を開催し、親同士の交流の場として情報交換を実施する。	健康づくり支援課

23	食物アレルギーのある子どもを持つ親の会	継続		A	ポッポサークル(食物アレルギーのある子どもを持つ親の会)を開催し、親同士の情報交換と仲間づくりを支援した。	a	親の会を実施し、親同士の情報交換の場を提供することで、同じ不安をもつ保護者の育児不安の解消が図れた。	ポッポサークル H22: 12回 のべ72人 H23: 7回 のべ35人 H24: 6回 のべ69人 H25: 6回 のべ50人 H26: 6回 のべ51人	H22: A - - H23: A - - H24: A - - H25: A - - H26: A - - 計 0 0	ポッポサークルを開催し、親同士の情報交換と仲間づくりを支援する。	健康づくり支援課
24	すくすくクリニック	継続		A	低体重児等を対象に診断、相談を行い、健やかな発育発達を支援した。	a	専門医による相談事業を実施することにより、児の発育発達状況に応じた支援が図れた。	すくすくクリニック H22: 12回 のべ65人 H23: 11回 のべ40人 H24: 10回 のべ59人 H25: 11回 のべ43人 H26: 12回 のべ56人	H22: A 396 396 H23: A 396 363 H24: A 396 330 H25: A 396 363 H26: A 396 363 計 1,980 1,815	低体重児等を対象に診断、相談を行い、健やかな発育発達を支援する。	健康づくり支援課
25	発育・発達クリニック	拡充		A	成長や精神・運動発達に心配がある乳幼児を対象に医師による診察・相談を行い、発育発達を支援した。平成24年度から子どもの心の健康相談と統合した。	a	専門医による相談事業を実施することにより、児の発育発達状況に応じた支援が図れた。	発育発達クリニック H22: 11回 のべ71人 H23: 11回 のべ71人 H24: 23回 のべ117人 H25: 22回 のべ107人 H26: 23回 のべ124人	H22: A 960 880 H23: A 960 880 H24: A 1,920 1,840 H25: A 1,920 1,760 H26: A 1,920 1,760 計 7,680 7,120	成長や精神・運動発達に心配がある乳幼児を対象に診察・相談を行い、発育発達を支援する。	健康づくり支援課
26	子どものこころの健康相談	拡充		E	平成24年度より発育発達クリニックと統合した。こころの健康相談対象者は発育発達クリニックにて支援した。	a	平成24年度より、発育発達クリニックと統合し、クリニックにおいて引き続き、必要な支援を実施した。	子どものこころの健康相談 H22: 11回 56人 H23: 11回 48人	H22: A 960 880 H23: A 960 880 H24: E - - H25: E - - H26: E - - 計 1,920 1,760	平成24年度より、発育発達クリニックと統合し、クリニックにおいて支援していく。	健康づくり支援課
27	多胎児をもつ親の会	継続		A	ハッピーエンジェル(多胎児をもつ親の会)を開催し、育児不安の解消を図った。	a	親の会を実施することで、親同士の交流を図ることができ、また、同じ不安をもつ保護者の育児不安の解消が図れた。	ハッピーエンジェル H22: 12回 のべ375人 H23: 12回 のべ175人 H24: 12回 のべ244人 H25: 12回 のべ377人 H26: 12回 のべ392人	H22: A - - H23: A - - H24: A - - H25: A - - H26: A - - 計 0 0	ハッピーエンジェル(多胎児をもつ親の会)を開催し、育児不安の解消を図る。	健康づくり支援課
28	こども医療費の助成	拡充		A	子どもが必要とする医療を容易に受けられるようにし、子どもの健康の向上と福祉の増進を図るため子どもに対する医療費の一部を支給した。支給件数 631,882件 支給額 1,120,378,189円	a	平成22年7月診療分より、通院助成を未就学児から小学3年生(9歳年度末)までに拡大した。平成24年10月診療分より、通院助成を小学3年生(9歳年度末)から小学6年生(12歳年度末)までに拡大。平成26年1月診療分より、通院助成を小学6年生(12歳年度末)から中学3年生(15歳年度末)までに拡大。こども医療費の支給対象年齢を段階的に拡大することで、子どもの健康の向上と福祉の増進を図った。	支給件数 H17 282,228件 H18 293,053件 H19 292,897件 H20 301,391件 H21 290,709件 H22 374,630件 H23 448,135件 H24 531,467件 H25 562,271件 H26 631,882件	H22: A 691,919 661,845 H23: A 830,618 793,328 H24: A 1,011,797 952,285 H25: A 1,105,982 1,028,461 H26: A 1,242,438 1,168,498 計 4,882,754 4,604,417	子どもが必要とする医療を容易に受けられるようにし、子どもの健康の向上と福祉の増進を図るため子どもに対する医療費の一部を支給する。	こども政策課 (H24年度までは医療助成課)

29	赤ちゃん広場	新規		A	育児サークルの支援として、育児学習・情報交換の場の提供した。	a	保健センターで赤ちゃん広場を実施することで、その後の各地域で実施されている子育てサロンなどに参加するきっかけ作りとなった。	赤ちゃん広場 H22:10回 のべ496人 H23:10回 のべ409人 H24:10回 のべ429人 H25:10回 のべ507人 H26:10回 のべ409人	H22 A 30 30 H23 A 30 30 H24 A 30 30 H25 A 30 30 H26 A 30 30 計 150 150	育児サークルの支援として、育児学習・情報交換の場の提供した。	健康づくり支援課
30	母子健康手帳の交付	新規		A	市役所や各市民センター、連絡所、証明センターにて、届出により妊婦に対して母子健康手帳を交付した。	a	市民センターなど身近な施設でも、母子健康手帳を交付することが出来、早期からの活用を図ることが出来た。	妊娠届出数 H22:2,961件 H23:2,905件 H24:3,165件 H25:2,897件 H26:2,898件 母子健康手帳交付数 H22:3,034件 H23:2,984件 H24:3,256件 H25:2,970件 H26:2,976件	H22 A 328 282 H23 A 400 394 H24 A 419 419 H25 A 400 400 H26 A 400 400 計 1,947 1,895	市役所、市民センター、連絡所、証明センターにて、届出により妊婦に対して母子健康手帳を交付する。	健康づくり支援課

【網掛け】重点施策

【平成26年度末達成状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

(単位:千円)

1-(2)「食育」の推進

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度末達成状況	平成26年度の事業実績【目標事業量に対する実績値】	後期計画達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)				平成27年度以降の方向性	所管課
							実績評価		既存統計データ			
1	保育園等における食育の推進	拡充		A	市立保育園において、健全な成長発達を目指し、食事の楽しさや大切さ、衛生習慣について栄養教育を行った。公立保育園20園 各6回	a	栄養教育を通じて、食べることへの興味や関心を持ち、自ら食事を選択する意欲を育てることができた。	毎年公立保育園20園 各6回	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	毎年実施している内容については継続。保育所保育指針の保育内容に合わせた食育年間計画を作成し、計画的に食育を推進していく。	保育課	
					市立小学校32校の就学前健診において、朝食を改善するために朝食啓発チラシを配布、希望校には朝食の大切さについての講話を実施した。また4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診において朝食の重要性、生活リズムの大切さを周知するための掲示物を展示した。	a	就学前健診を利用して朝食の大切さを周知することができた。	H22「食育講演会」1回 「幼児のむし歯予防推進事業研修会」1回 H23「食育講演会」1回 「幼児のむし歯予防推進事業研修会」1回 H24 朝食のチラシ配布数 1,402枚 H25 朝食のチラシ配布数 3,021枚 朝食についての講話 10校 H26 朝食のチラシ配布数3,730枚 朝食についての講話1校	H22 B 40 40 H23 B 40 40 H24 A 40 0 H25 A 0 0 H26 A 0 0 計 120 80	市内小学校32校の就学前健診において、朝食のチラシの配布と健診時の掲示物展示については継続。今年度については掲示物を離乳食教室等でも展示予定。	健康づくり支援課	

2	小・中学校における食育の推進	継続	A	学校における食育推進のため、各学校は、食に関する全体計画を作成した。学校保健広報「わかあゆ」に食育に関する内容を取り上げ、保護者に対しても食育の充実推進の協力を求めた。	a	学校における食育推進のため、各学校に食に関する全体計画を作成させた。学校保健広報「わかあゆ」に食育に関する内容を取り上げ、保護者に対しても食育の充実推進を図ることができた。	H22 全体計画作成 市内54校「わかあゆ」配布部数 25000部 H23 全体計画作成 市内54校「わかあゆ」配布部数 25000部 H24 全体計画作成 市内54校「わかあゆ」配布部数 25000部 H25 「わかあゆ」配布部数 25000部 H26 「わかあゆ」配布部数 25000部	H22 A 325 — H23 A 325 290 H24 A 250 277 H25 A 250 263 H26 A 270 286 計 1,420 1,116	学校における食育推進のため、各学校の食に関する全体計画の見直しを行う。学校保健広報「わかあゆ」に食育に関する内容を取り上げ、保護者に対しても食育の充実推進の協力を求める。学校ファームの活動との関連を図る。	教育指導課		
				A		小中学校への食に関する指導 小学校2年生 3,002人・196回 各種広報誌の発行 6回	a	平成22～26年度に計942回、14,600人を対象に指導を行い食に関する理解を深めることができた。	H22 小学校2年生3,000人193回 H23 小学校2年生2,877人186回 H24 小学校2年生2,909人187回 H25 小学校2年生2,812人180回 H26 小学校2年生3,002人196回 毎年各種広報誌発行6回	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	定着した食指導を引き続き継続していくとともに、他学年への拡大を検討していく。	学校給食課
				A		栄養教諭・学校栄養職員と合同の「食育」推進のための指導法研修会を実施し、望ましい食生活や栄養などに関する情報及び効果的な指導方法について各学校の教職員に周知した。また、研修会場を川越総合卸売市場として、見学等を行うことにより、川越市の食に関わりのある施設についての理解を深めた。また、小学校教諭、栄養教諭による、実践事例発表を行い、実際の指導場面の発表を行った。	a	研修に参加する教職員が、各学校での食育の推進を図るために研修内容を毎年度更新するとともに、研修会場についても川越市内の施設を借用して行うことにより効果的な研修となった。	H23 食に関する指導法研修会 小学校教諭 27名 中学校教諭 21名 栄養教諭、栄養職員 9名 学校給食課、給食センター 5名 H24 食に関する指導法研修会 小学校教諭 31名 中学校教諭 20名 特別支援 1名 栄養教諭、栄養職員 10名 学校給食課、給食センター 7名 H25 食に関する指導法研修会 小学校教諭 32名 中学校教諭 22名 特別支援 1名 栄養教諭、栄養職員 7名 学校給食課、給食センター 5名 H26 食に関する指導法研修会 小学校教諭 32名 中学校教諭 19名 特別支援 1名 栄養教諭、栄養職員 10名 学校給食課、給食センター 7名	H22 A — — H23 A 25 25 H24 A 25 15 H25 A 25 12 H26 A 25 0 計 100 52	会場を総合保健センターとして、食や健康に関わる施設での研修とする。学校における食育推進のため、学校給食課から講師を招き、「心と体を育む食育の重要性」「学校での食育の推進」についての講義、教育指導課から「食物アレルギーについて」の研修を行っていく。また、学校での研究授業の実践発表を引き続き行っていく。	教育センター

3	地域の特色を活かした「食育」の実践活動	継続	学校給食への川越産野菜使用割合20.0%(平成30年度)	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産農産物の学校給食への利用 8.1% ・地場産物を利用した料理教室の開催 ・地場産物に関する食育資料提供 ・夏休み料理教室の開催 ・食育用パネル作成 	b	<p>学校給食で使用する米の割合は100%川越産を使用した。川越産野菜の割合は、平成25年度は目標値の20%を達成したが、26年度は消費税の増税等により大変厳しい運営となり大幅に使用率が下がる結果となった。食育事業として実施する全ての料理教室では川越産の食材を取り入れた。</p>	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>B</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H26</td><td>B</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	H22	B	—	—	H23	A	—	—	H24	A	—	—	H25	A	—	—	H26	B	—	—	計		0	0	<p>地場産物をPRしていくとともに供給ルートの検討をしていく。</p>	学校給食課
				H22	B	—	—																											
				H23	A	—	—																											
H24	A	—	—																															
H25	A	—	—																															
H26	B	—	—																															
計		0	0																															
A	<ul style="list-style-type: none"> ・地場農産物の学校給食への利用推進 ・学校給食への安定納入に要する経費への助成 	a	<p>児童・生徒を通じ、地場農産物の消費拡大の動機付けを行うため、学校給食に高品質な地場農産物(巨峰)を安定的に納入することができた。</p>	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>A</td><td>150</td><td>147</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>150</td><td>148</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>200</td><td>167</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>200</td><td>130</td></tr> <tr><td>H26</td><td>A</td><td>200</td><td>72</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>900</td><td>664</td></tr> </table>	H22	A	150	147	H23	A	150	148	H24	A	200	167	H25	A	200	130	H26	A	200	72	計		900	664	<p>26年度同様、引き続き支援していく。</p>	農政課				
H22	A	150	147																															
H23	A	150	148																															
H24	A	200	167																															
H25	A	200	130																															
H26	A	200	72																															
計		900	664																															
A	<p>地場農産物を保育園給食に取り入れるため、給食材料納入業者に対し、積極的に納入するよう働きかけた。米については、川越産又は埼玉県産が納入されるようになった。</p>	a	<p>納入業者の選定の際に、地場農産物を取り入れるよう積極的に働きかけた結果、きゅうり、小松菜、里芋等の川越産農産物を納入してもらうことができた。米の納入については、ほぼ全園、川越産又は埼玉県産が納入された。</p>	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>B</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H26</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	H22	B	—	—	H23	A	—	—	H24	A	—	—	H25	A	—	—	H26	A	—	—	計		0	0	<p>給食材料納入業者に今後も働きかけていく。川越産農産物並びに埼玉県産食材料の出回り期においては、その食材料を積極的に献立に取り入れていく。</p>	保育課				
H22	B	—	—																															
H23	A	—	—																															
H24	A	—	—																															
H25	A	—	—																															
H26	A	—	—																															
計		0	0																															

4	情報発信活動	拡充		A	食生活改善推進員協議会、地域活動栄養士の会等がイベント開催時に食生活改善の掲示物を作成し、展示したり、試食やエプロンシアター等を実施し情報を発信した。また、歯科医師会、地域活動栄養士の会、歯科衛生士会と共同で作成した食育やむし歯予防をはじめ幼児の正しい生活習慣を身につけるための絵本を配布した。	a	正しい食生活について普及啓発できた	食生活改善推進員協議会、地域活動栄養士の会等が歯ッビーフェスティバル、健康まつりに参加協力。 H22 絵本 2,700冊配布 紙芝居 56冊配布 H23 絵本 2,700冊配布 紙芝居 4冊配布 H24 絵本 2,700冊配布 H25 絵本 2,700冊配布 H26 絵本 2,700冊配布	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>A</td><td>126</td><td>125</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>126</td><td>125</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>129</td><td>142</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>50</td><td>0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>A</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>431</td><td>392</td></tr> </table>	H22	A	126	125	H23	A	126	125	H24	A	129	142	H25	A	50	0	H26	A	0	0	計		431	392	食生活改善推進員協議会、地域活動栄養士の会等がイベント開催時に食生活改善の掲示物を作成し、展示したり、試食やエプロンシアター等を実施し情報を発信する。また、歯科医師会、地域活動栄養士の会、歯科衛生士会と共同で作成した食育やむし歯予防をはじめ幼児の正しい生活習慣を身につけるための絵本を継続して配布する。	健康づくり支援課
H22	A	126	125																																
H23	A	126	125																																
H24	A	129	142																																
H25	A	50	0																																
H26	A	0	0																																
計		431	392																																
5	乳幼児健診・相談時の栄養相談	拡充		A	1歳6か月健診や乳幼児相談の際に栄養士による個別相談を実施し、食に関する不安の解消、望ましい食生活への支援を行った。	a	個別相談を行うことで、育児不安の解消が図られている	栄養相談 H23: 1歳6か月児健診 246件 乳幼児相談 267件 H24: 1歳6か月児健診 259件 乳幼児相談 251件 H25: 1歳6か月児健診 249件 乳幼児相談 408件 H26: 1歳6か月児健診 273件 乳幼児相談 408件	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H26</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	H22	A	—	—	H23	A	—	—	H24	A	—	—	H25	A	—	—	H26	A	—	—	計		0	0	1歳6か月健診や乳幼児相談の際に栄養士による個別相談を実施し、食に関する不安の解消、望ましい食生活への支援を行う。	健康づくり支援課
H22	A	—	—																																
H23	A	—	—																																
H24	A	—	—																																
H25	A	—	—																																
H26	A	—	—																																
計		0	0																																
6	食生活改善推進員協議会の活動支援	継続		A	親子料理教室などをはじめとする調理実習等の事業を実施。健康まつり、歯ッビーフェスティバルなどのイベントにて食育を啓発した。また、会員は、食育等研修を受講し資質の向上に努めた。	a	「地域の方や近所の人に健康について自ら話すようになった」などの声があり、資質の向上につながった	H22 親子料理教室の実施 1回 歯ッビーフェスティバル1回 健康まつりに参加協力1回 食育に関する研修 随時 H23 親子料理教室の実施 1回 歯ッビーフェスティバル1回 健康まつりに参加協力1回 食育に関する研修 随時 H24 親子料理教室の実施 3回 歯ッビーフェスティバル1回 健康まつりに参加協力1回 食育に関する研修 随時 H25 親子料理教室の実施 1回 歯ッビーフェスティバル1回 健康まつりに参加協力 1回 食育に関する研修 随時 H26 親子料理教室の実施 1回 歯ッビーフェスティバル1回 健康まつりに参加協力1回 食育に関する研修 随時	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>A</td><td>45</td><td>45</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>45</td><td>45</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>45</td><td>45</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>18</td><td>6</td></tr> <tr><td>H26</td><td>A</td><td>18</td><td>6</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>171</td><td>147</td></tr> </table>	H22	A	45	45	H23	A	45	45	H24	A	45	45	H25	A	18	6	H26	A	18	6	計		171	147	親子料理教室などをはじめとする調理実習等の事業を実施予定。健康まつり、歯ッビーフェスティバルなどのイベントにて食育をはじめとする食生活に関わる啓発を予定。また、会員は、食育等研修を受講し資質の向上を図る。	健康づくり支援課
H22	A	45	45																																
H23	A	45	45																																
H24	A	45	45																																
H25	A	18	6																																
H26	A	18	6																																
計		171	147																																

7	地域活動栄養士会との協働	拡充		A	地域活動栄養士の会と共催し、親子に対し食育の推進を図った。	a	幼児の食事のバランスを考え、食生活を見直す機会となった	たのしい食育 H22:4回 109人 H23:4回 100人 H24:4回 137人 H25:4回 100人 H26:4回 67人	H22 A 28 28 H23 A 28 28 H24 A 28 28 H25 A 28 28 H26 A 28 28 計 140 140	地域活動栄養士の会と共催し、食育の推進を図る。	健康づくり支援課
8	妊娠期・離乳期・幼児期を対象とした食に関する事業における食育の推進	拡充		A	妊娠期から幼児期まで、ライフステージにおいて必要な知識の普及啓発を図り、食を通じた健康づくりの支援を行った。	a	食生活を見直すきっかけ作りと正しい食生活を普及することができた	各事業の実施状況参照	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	妊娠期から幼児期まで、ライフステージにおいて必要な知識の普及啓発を図り、食を通じた健康づくりの支援を行う。	健康づくり支援課

【網掛け】重点施策

【平成26年度末達成状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

(単位:千円)

1-(3) 思春期保健対策の充実

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度末達成状況	平成26年度の事業実績【目標事業量に対する実績値】	後期計画達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)				平成27年度以降の方向性	所管課
							実績評価		既存統計データ			
1	薬物乱用防止啓発	継続		A	保健所窓口、イベント会場(健康まつり会場等3か所)において、リーフレット等を配布し啓発を行った。 川越駅と川越市駅の構内にポスターを掲示し、啓発を行った。 県と連携して薬物乱用防止啓発活動を行った。 広報紙等により啓発を行った。 啓発用リーフレットを印刷(1,000部)。	a	近年、特に乱用件数が増加している「危険ドラッグ」の乱用防止啓発リーフレットを印刷し、イベント会場で配布して広く啓発を行うことができた。 市内の利用者が多い駅の構内に「危険ドラッグ」の乱用防止啓発ポスターを掲示し、広く啓発を行った。	市内のイベント会場(計3箇所)にて啓発用リーフレット等を配布 H24 約1000部 H25 約1100部 H26 約1100部 平成26年度から市内の2つの駅に啓発用ポスターを掲示	H22 A 92 92 H23 A 69 69 H24 A 72 71 H25 A 72 59 H26 A 48 35 計 353 326	県と連携して引き続き薬物乱用防止啓発活動に努める。	保健総務課	
					全市立学校に薬物乱用防止教室の開催を呼びかけ、児童生徒だけでなく、保護者への啓発を図った。 前年比 保護者参加による小学校15校から20校、中学校8校から16校と保護者が参加する実施校は増加した。	a	全市立学校で薬物乱用防止教室の実施率は100%である。その内容は危険ドラッグをはじめとする最新の情報に基づいた指導を行った。 さらに、児童生徒の自尊心を高めるための指導法の工夫を行った。 また、保護者の参加を促し、学校・家庭・地域が一体となった取組を推進した。	市立小・中・高校全校で実施薬物乱用防止教室実施回数 H24 小32校 平均3.8回/年中22校 平均2.9回/年 高・特 各1回/年 保護者参加実施校 小16校 中8校 H25 小32校 平均3.3回/年中22校 平均2.5回/年 高・特 各1回/年 保護者参加実施校 小15校 中8校 H26 小32校 平均3.4回/年中22校 平均2.9回/年 高・特 各1回/年 保護者参加実施校 小20校 中16校 特1校	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	引き続き、全市立学校で薬物乱用防止教室を開催するなど、啓発活動を実施していく。	教育指導課	

2	思春期保健相談	継続	思春期保健講座 (4クール／年)	A	参加者の意向により全1回にて開催。思春期健康教育の充実のため、関係者含め課題の整理等を行った。併せて出前講座の実施により知識や情報を発信した。	a	講座を通して、関係者が知識や情報を習得する場の提供ができた。また、参加者の声から出前講座の需要を引き出し、発信の場の拡充につながった。	H22 参加者88名 H23 参加者123名 H24 参加者108名 H25 相談事業随時実施 H26 参加者34名	H22 A 222 106 H23 A 156 98 H24 A 156 33 H25 A 78 45 H26 A 78 79 計 690 361	性に関する正しい知識や情報を習得する場として充実させていく。	保健予防課
				A	随時、電話等で思春期の保健相談を実施した。	a	電話等による相談を実施することで、必要な支援を行うことが出来たが、相談件数が少ないため、引き続き事業の周知を図る必要がある。	相談件数 H22: 4件 H23: 2件 H24: 0件 H25: 1件 H26: 8件	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	随時、電話等で思春期の保健相談を実施する。引き続き事業の周知を行う。	健康づくり支援課

3	子育て体験学習	拡充	10校	A	中学生を対象に「命の力」「命のつながり」を話し伝えることで、自己肯定感を高め、自己と他者を大切に思う心を養い、実際の乳幼児やその親とふれあうことで、自分がうまれてきたことに喜びを感じてもらうことを目的として、市民活動団体と協働委託事業で講座を実施した。	a	100組を超える赤ちゃん・母親に協力をいただき実施。当事業は学校やPTAからの評価も高く、年々実施希望校が増加している。少子化などにより乳幼児とふれあう機会が減少しつつある中学生にとって、貴重な体験であり、「命の大切さ」等を学ばせることができた。	H22: 市内中学校7校で実施 ※提案型協働補助事業のため、市民活動支援課の予算で実施 H23: 市内中学校12校で実施 H24: 市内中学校9校で実施 H25: 市内中学校10校で実施 H26: 市内中学校10校で実施	H22 A 54 54 H23 A 350 350 H24 A 350 350 H25 A 350 350 H26 A 350 350 計 1,454 1,454	NPO法人川越子育てネットワークに業務委託をし、中学校20校で実施予定。	こども育成課 (H24年度まで: 子育て支援課、青少年課)
				A	中学生社会体験事業及び交流事業 公立保育園受け入れ実績 14校 14回 受け入れ生徒数 768名 保育園訪問事業 6校 6回 140名	a	・保育園での仕事を体験することや幼い子どもと交流する事で子どもとの関わり方を学び穏やかな感情を抱き、自信を持ち自己肯定感が高まる。 ・地域の学校と交流し入学への期待が高まる。	社会体験事業等受け入れ H22 15校 H23 23校 H24 15校 H25 3校 H26 6校	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 — —	社会体験学習及び交流活動をする事で、保育園での子どもたちの様子や保育園での職業体験を通し、豊かな心身の育成を図る。	保育課
				A	こども育成課が主体となって実施した事業について、赤ちゃんボランティア募集の周知に協力を行った。	a	乳幼児健診などで事業の周知をすることで、事業実施の協力を図った。	チラシの配付 H22 B — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	こども育成課が主体となって行う事業について、事業実施状況を見ながら協力していく。	健康づくり支援課	
				A	中心課の事業実施状況を見ながら、必要に応じて協力を検討した。	a	中心課が行っている事業に関するチラシの配布等を公民館内で行った。	H22 B — — H23 B — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	中心課の事業実施状況を見ながら、必要に応じて協力を検討していく。	中央公民館	
				A	こども育成課が主体となって実施した事業について、中学校との調整を行った。	a	子育て体験学習を通して、市内の中学生は命の大切さや子育ての大変さを学ぶことができた。	H22 B — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	こども育成課が主体となって行う事業について、目的の周知を各学校に図り、実施に当たっては、学校との調整等を行う。	教育指導課	

4	思春期健康教育	拡充	出前講座 (10回/年)	A	中学・高校への出前講座 年11回実施	a	思春期保健講座等により普及啓発に努め、出前講座の必要性も高まり拡充できた。その結果、生徒や保護者へ直接感染症予防の啓発及び知識を伝達する機会を充実させることができた。	H22 参加者229名 H23 参加者818名 H24 参加者2239名 H25 参加者2571名 H26 参加者1430名	H22 A 330 33 H23 A 132 165 H24 A 264 330 H25 A 396 429 H26 A 396 363 計 1,518 1,320	講座の機会を充実させていく。	保健予防課
				A	依頼により健康教育を実施した。	a	正しい知識の普及が図れた。	H22:1回 16人 H23:1回 15人 H24:1回 15人 H25:1回 20人 H26:1回 20人	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	依頼により健康教育を実施していく。	健康づくり支援課
5	飲酒・喫煙防止対策	継続	未成年の飲酒・喫煙率0%	A	飲酒・喫煙防止についてチラシを作成、保健推進員協議会等団体の協力によりラジオ体操や夏祭りなどイベントにて啓発活動を実施した。「広報川越」に喫煙防止の記事を掲載。保健推進員の研修において、川越みんなの健康プランにおける「タバコ」の害に関する研修を実施した。	a	飲酒・喫煙防止についてチラシを作成し、啓発を実施できた。保健推進員等の団体に対しては、「喫煙防止対策」について研修を実施できた。	H22【研修会】 保健推進員 3回 食生活改善推進員協議会 1回 H23【研修会】 保健推進員 3回 食生活改善推進員協議会 1回 健康づくりボランティアやまぶき21 1回 H24【研修会】 保健推進員 3回 H25【研修会】 保健推進員 3回 H26【研修会】 保健推進員 1回	H22 A 26 26 H23 A 17 17 H24 A 17 10 H25 A 10 10 H26 A 10 0 計 80 63	飲酒・喫煙防止についてチラシを作成し、啓発予定。保健推進員等は、「喫煙防止対策」について研修を実施。	健康づくり支援課
6	性感染症対策	拡充	性感染症検査、相談及び即日検査(月3回)	A	性感染症検査・相談 年24回 即日検査 年14回 計 年38回実施	a	定例の検査・相談により性感染症の早期発見や予防啓発の充実が図れた。	H22 受検者474名 H23 受検者527名 H24 受検者384名 H25 受検者476名 H26 受検者454名	H22 A 413 286 H23 A 564 450 H24 A 486 410 H25 A 430 365 H26 A 380 367 計 2,273 1,878	性感染症の早期発見のため、検査体制の強化や予防啓発を充実させていく。	保健予防課

【網掛け】重点施策

【平成26年度未達成状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

(単位:千円)

1-(4) 小児医療の充実

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度未達成状況	平成26年度の事業実績【目標事業量に対する実績値】	後期計画達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)					平成27年度以降の方向性	所管課
							実績評価		既存統計データ		年度		
1	小児救急医療対策	継続		A	川越地区救急医療圏と比企地区救急医療圏の複数にわたり事業を実施する必要があるため、平成17年度より埼玉県が「小児救急医療拠点病院運営事業」として該当医療機関に補助金を交付している。	a	該当する医療機関に対し、埼玉県が運営費の一部を補助することで、小児救急医療を確保することができた。	小児二次救急医療機関数 H23 川越地区:1 比企地区:0 H24 川越地区:1 比企地区:0 H25 川越地区:1 比企地区:0 H26 川越地区:1 比企地区:0	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	引き続き埼玉県が事業主体となり実施していく予定である。 なお、比企地区の医療機関の整備状況によっては、特定年度から事業主体が川越市に変更となる可能性がある。	保健医療推進課		
2	休日急患・小児夜間診療事業	継続		A	平日夜間及び休日における軽症の救急患者の医療を確保するため、夜間休日診療事業を実施する法人等に対し、補助を行った。 診療日数365日 患者数 10,072人(うち小児科6,125人)	a	夜間休日診療所を運営する川越市医師会等に対し、運営費の一部を補助し、休日及び夜間における初期救急医療を確保することができた。	患者数 H23:5,377人(うち小児科3,864人) H24:7,777人(うち小児科4,816人) H25:8,814人(うち小児科5,922人) H26:10,072人(うち小児科6,125人) ※H23年度までは市立診療所で実施していたが、H24年度からは川越市医師会夜間休日診療所で実施	H22 A 46,206 44,646 H23 A 46,304 44,622 H24 A 37,500 37,500 H25 A 38,150 38,150 H26 A 35,000 35,000 計 203,160 199,918	川越市医師会夜間休日診療所において、休日及び夜間に軽症の救急患者の診療を実施する事業に対し、必要な補助を行う。	保健医療推進課		
3	未熟児養育医療給付	継続		A	養育のため指定養育医療機関に入院加療が必要な未熟児等に対して、その養育に必要な医療給付を行った。	a	必要な給付を行うことで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。	受給者 H22:100人 H23:111人 H24:116人 H25:95人 H26:143人	H22 A 29,150 29,150 H23 A 26,312 25,459 H24 A 31,106 27,707 H25 A 31,106 22,047 H26 A 20,882 29,129 計 138,556 133,492	養育のため指定養育医療機関に入院加療が必要な未熟児等に対して、その養育に必要な医療給付を行う。	健康づくり支援課		
4	自立支援医療(育成医療)給付	継続		A	身体に障害のある児童に対して、健全育成・福祉の向上を図るため必要な医療の給付を行った。	a	必要な給付を行うことで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。	受給者 H22:115人 H23:108人 H24:113人 H25:101人 H26:101人	H22 A 7,380 7,380 H23 A 10,150 9,213 H24 A 10,151 7,071 H25 A 10,131 7,811 H26 A 8,661 9,577 計 46,473 41,052	身体に障害のある児童に対して、健全育成・福祉の向上を図るため必要な医療の給付を行う。	健康づくり支援課		
5	結核児童療育給付	継続		A	結核児童に対してその児童の心身両面にわたる健全育成・福祉の向上を図るため必要な医療等の給付をする。	a	給付対象者がいなかったが、引き続き事業の周知を図る。	受給者 H22:0人 H23:0人 H24:0人 H25:0人 H26:0人	H22 A 127 — H23 A 127 — H24 A 127 — H25 A 127 — H26 A 127 — 計 635 0	結核児童に対してその児童の心身両面にわたる健全育成・福祉の向上を図るため必要な医療等の給付を行う。	健康づくり支援課		
6	小児慢性特定疾患医療給付	継続		A	小児慢性特定疾患のうち、国が指定した特定疾患について病気の治療研究を推進し、家族の経済的負担を軽減するため、必要な医療の給付を行った。	a	必要な給付を行うことで、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。	受給者 H22:255人 H23:253人 H24:267人 H25:262人 H26:264人	H22 A 50,687 47,266 H23 A 52,929 46,923 H24 A 53,891 51,209 H25 A 53,891 59,882 H26 A 76,437 64,414 計 287,835 269,694	小児慢性特定疾患のうち、国が指定した特定疾患について病気の治療研究を推進し、家族の経済的負担を軽減するため、必要な医療の給付を行う。	健康づくり支援課		

(2)基本目標2 心身の健やかな成長に資する教育環境づくりの推進

【網掛け】重点施策

【平成26年度末達成状況】 A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】 a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

2-（1）次代の親の育成

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度末 達成状況	平成26年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	後期計画 達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)					平成27年度以降の方向性	所管課			
							実績評価		既存統計データ		年度			進捗状況	予算額	決算額
1	男女平等教育研修会	継続		A	川越市における男女共同基本計画の周知を各教職員に図ると共に、男女平等意識を高める学校での実践についての研修を推進した。「男女平等教育研修会」を実施し、全校の人権教育担当者等に男女共同参画の視点に立った教育の推進についての研修を行った。	a	川越市内における男女共同参画プランの周知を図ると共に、男女平等意識を高める学校での実践について研修を実施し、男女共同参画の視点に立った教育・学習の拡充を図ることができた。	研修会参加者数 H22 55名 H23 50名 H24 55名 H25 55名 H26 56名	H22 A H23 A H24 A H25 A H26 A 計	- - - - - 0	- - - - -	「男女平等教育研修会」を実施する。各学校・園において、男女平等の重要性や人権尊重、男女の相互理解と協力等、男女共同参画の視点に立った教育を進める。	教育指導課			
					市内各学校の全教職員に川越市における男女共同参画基本計画の周知と、子どもたちの男女平等意識を高める学校での取組について研修を行った。	a	男女共同参画社会の実現を目指した「男女平等教育研修会」の実施を通して、市内各学校の全教職員に川越市における男女共同参画基本計画の周知及び各学校において男女平等意識を高めることができた。	研修会参加者数 H22 55名 H23 50名 H24 55名 H25 55名 H26 56名	H22 A H23 A H24 A H25 A H26 A 計	10 8 5 5 0 28	5 0 0 0 5	男女共同参画社会の実現を目指し、「男女平等教育研修会」を企画・実施する。研修会では、講義「男女共同参画社会の目指すもの」、報告「学校における男女平等意識を高めるための実践」を行う。	教育センター (旧 教育研究所)			
2	中学生社会体験事業	拡充	実施率 100%	A	川越市中学生社会体験事業推進委員会での協議をもとに中学生が地域のなかで活動することにより多くの人々とのふれあいを通して社会性や自立心を育むことができた。	a	川越市中学生社会体験事業推進委員会での協議を実施した。中学生が地域の中で活動や多くの人びととのふれあいを通して、勤労観や社会性・自立心を養うと共に、生徒一人一人が自分の生き方を見付け、たくましく豊かに生きる力を育むことができた。	H22 ・参加生徒数2,825名 ・協力事業所のべ771事業所 H23 ・参加生徒数2,941名 ・協力事業所のべ828事業所 H24 ・参加生徒数2,777名 ・協力事業所のべ798事業所 H25 ・参加生徒数2,667名 ・協力事業所のべ795事業所 H26 ・参加生徒数2,737名 ・協力事業所のべ822事業所	H22 A H23 A H24 A H25 A H26 A 計	1,398 1,398 1,398 1,398 1,398 6,990	1,398 1,375 1,362 1,350 1,366 6,851	今年度も各事業所の協力のもと、生徒の主体的、意欲的な活動につなげていきたい。これからの自分の進路選択に向けた行方べき点に気づける取り組みにする。	教育指導課			

3	子育て体験学習 (1-(3)-3の再掲)	拡充	10校	A	中学生を対象に「命の力」「命のつながり」を話し伝えることで、自己肯定感を高め、自己と他者を大切に思う心を養い、実際の乳幼児やその親とふれあうことで、自分がうまれてきたことに喜びを感じてもらうことを目的として、市民活動団体と協働委託事業で講座を実施した。	a	100組を超える赤ちゃん・母親に協力をいただき実施。当事業は学校やPTAからの評価も高く、年々実施希望校が増加している。少子化などにより乳幼児とふれあう機会が減少しつつある中学生にとって、貴重な体験であり、「命の大切さ」等を学ばせることができた。	H22: 市内中学校7校で実施 ※提案型協働補助事業のため、市民活動支援課の予算で実施 H23: 市内中学校12校で実施 H24: 市内中学校9校で実施 H25: 市内中学校10校で実施 H26: 市内中学校10校で実施	H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	NPO法人川越子育てネットワークに業務委託をし、中学校20校で実施予定。	こども育成課 (H24年度まで: 子育て支援課、青少年課)
				A	中学生社会体験事業及び交流事業 公立保育園受け入れ実績 14校 14回 受け入れ生徒数 768名 保育園訪問事業 6校 6回 140名	a	・保育園での仕事を体験することや幼い子どもと交流する事で子どもとの関わり方を学び穏やかな感情を抱き、自信を持ち自己肯定感が高まる。 ・地域の学校と交流し入学への期待が高まる。	社会体験事業等受け入れ H22 15校 H23 23校 H24 15校 H25 3校 H26 6校	H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	社会体験学習及び交流活動をする事で、保育園での子どもたちの様子や保育園での職業体験を通し、豊かな心身の育成を図る。	保育課
				A	こども育成課が主体となって実施した事業について、赤ちゃんボランティア募集の周知に協力した。	a	乳幼児健診などで事業の周知を周知することで、事業実施のの協力を図った。	チラシ配布	H22 B 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	中心課が主体となって行う事業について、事業実施状況を見ながら協力していく。	健康づくり支援課
				A	中心課の事業実施状況を見ながら、必要に応じて協力を検討した。	a	中心課が行っている事業に関するチラシの配布等を公民館内で行った。		H22 B 再掲 再掲 H23 B 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	中心課の事業実施状況を見ながら、必要に応じて協力を検討していく。	中央公民館
				A	こども育成課が主体となって実施した事業について、中学校との調整を行った。	a	子育て体験学習を通して、市内の中学生は命の大切さや子育ての大変さを学ぶことができた。		H22 B 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	こども育成課が主体となって行う事業について、学校との調整等を行う。	教育指導課

【網掛け】重点施策

【平成26年度未達成状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

2-(2) 子どもの生きる力の育成に向けた教育環境等の整備

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度未達成状況	平成26年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	後期計画達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)					平成27年度以降の方向性	所管課			
							実績評価		既存統計データ		年度進捗状況			予算額	決算額	
1	小・中学校における食育の推進 (1-(2)-2の再掲)	継続		A	学校における食育推進のため、各学校は、食に関する全体計画を作成した。学校保健広報「わかあゆ」に食育に関する内容を取り上げ、保護者に対しても食育の充実推進の協力を求めた。	a	学校における食育推進のため、各学校に食に関する全体計画を作成させた。学校保健広報「わかあゆ」に食育に関する内容を取り上げ、保護者に対しても食育の充実推進を図ることができた。	H22 全体計画作成 市内54校「わかあゆ」配布部数 25000部 H23 全体計画作成 市内54校「わかあゆ」配布部数 25000部 H24 全体計画作成 市内54校「わかあゆ」配布部数 25000部 H25 「わかあゆ」配布部数 25000部 H26 「わかあゆ」配布部数 25000部	H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲			学校における食育推進のため、各学校の食に関する全体計画の見直しを行う。学校保健広報「わかあゆ」に食育に関する内容を取り上げ、保護者に対しても食育の充実推進の協力を求める。学校ファームの活動との関連を図る。	教育指導課			
					小中学校への食に関する指導 小学校2年生 3,002人・196回 各種広報誌の発行 6回	a	平成22~26年度に計942回、14,600人を対象に指導を行い食に関する理解を深めることができた。	H23 小学校2年生2,877人186回 H24 小学校2年生2,909人187回 H25 小学校2年生2,812人180回 H26 小学校2年生3,002人196回 毎年各種広報誌発行6回	H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲		定着した食指導を引き続き継続していくとともに、他学年への拡大を検討していく。	学校給食課				
					栄養教諭・学校栄養職員と合同の「食育」推進のための指導法研修会を実施し、望ましい食生活や栄養などに関する情報及び効果的な指導方法について各学校の教職員に周知した。また、研修会場を川越総合卸売市場として、見学等を行うことにより、川越市の食に関わりのある施設についての理解を深めた。また、小学校教諭、栄養教諭による、実践事例発表を行い、実際の指導場面の発表を行った。	a	研修に参加する教職員が、各学校での食育の推進を図るために研修内容を毎年度更新するとともに、研修会場についても川越市内の施設を借用して行うことにより効果的な研修となった。	H23 食に関する指導法研修会 小学校教諭 27名 中学校教諭 21名 栄養教諭、栄養職員 9名 学校給食課、給食センター5名 H24 食に関する指導法研修会 小学校教諭 31名 中学校教諭 20名 特別支援 1名 栄養教諭、栄養職員 10名 学校給食課、給食センター7名 H25 食に関する指導法研修会 小学校教諭 32名 中学校教諭 22名 特別支援 1名 栄養教諭、栄養職員 7名 学校給食課、給食センター5名 H26 食に関する指導法研修会 小学校教諭 32名 中学校教諭 19名 特別支援 1名 栄養教諭、栄養職員 10名 学校給食課、給食センター7名	H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲		会場を総合保健センターとして、食や健康に関わる施設での研修とする。学校における食育推進のため、学校給食課から講師を招き、「心と体を育む食育の重要性」「学校での食育の推進」についての講義、教育指導課から「食物アレルギーについて」の研修を行って行く。また、学校での研究授業の実践発表を引き続き行って行く。	教育センター				

2	子どもの情報提供事業	継続	A	かわごえし子ども情報誌「小江戸探検隊」を年2回発行。市立小中学校の児童生徒に学校を通じて配布。	a	長期休業にあわせ、年2回発行・配布を計画どおり実施することができた。	H22 2回発行 計57,100部 H23 2回発行 計54,640部 H24 2回発行 計53,700部 H25 2回発行 計53,660部 H26 2回発行 計53,050部	H22 A 619 493 H23 A 469 452 H24 A 478 374 H25 A 391 369 H26 A 406 370 計 2,363 2,058	長期休業前に、児童生徒に情報誌を配付し、ひとりでも多くの子どもに実際に体験・見学してもらうことを目指す。	地域教育支援課 (旧 生涯学習課)
3	臨床心理士配置事業	拡充	A	教育センター分室(リペーラ)に1名配置し、学校やリペーラにおける相談活動の指導、助言を行った。	a	臨床心理士を配置することにより、学校からの要請に対して、適時に適切な助言・援助をすることができた。年々複雑なケースが増加しており、臨床心理の専門性を必要とする有効な助言は、教育相談をより効果的なものに行うことができた。	H22 A 1,373 1,373 H23 A 1,373 1,464 H24 A 1,373 1,373 H25 A 1,386 1,386 H26 A 1,386 1,356 計 6,891 6,952	教育センター分室(リペーラ)に1名配置し、学校やリペーラにおける相談活動の指導、助言、及び各学校への派遣による訪問相談や教員の指導力の向上を図る研修を実施する。	教育センター (旧 教育研究所)	
4	さわやか相談員配置事業	継続	A	児童生徒や保護者への相談活動、家庭訪問等を実施した。	a	各中学校に配置された相談員が、中学生、その保護者等の友人関係や性格・行動、不登校の相談にかかわり、解決率80%以上の成果を上げている。また、小学校訪問を行い、小中連携を意識した相談活動も行うことができた。	H22 中学校22校に22人配置 H23 中学校22校に22人配置 H24 中学校22校に22人配置 H25 中学校22校に22人配置 H26 中学校22校に22人配置	H22 A 26,851 26,072 H23 A 22,007 21,324 H24 A 21,428 19,878 H25 A 19,705 19,526 H26 A 19,705 19,532 計 109,696 106,332	中学校22校に1名ずつ、22名を配置し、生徒やその保護者からの相談に応じる。さらに、校種間連携をもとに、各中学校区毎に小学校での相談活動にも対応し、児童やその保護者からの相談にも応じる。また、埼玉県スクールカウンセラーや教育センター分室(リペーラ)の教育相談と連携を図りながら、専門的な支援や、継続した相談が必要なケースに対応できるようにする。	教育センター (旧 教育研究所)

5	学校カウンセリング研修事業	継続		A	教職員や川越市さわやか相談員を対象に学校カウンセリングに関する研修を実施した。初任者研修においても全員が生徒指導・教育相談初級研修を受講している。	a	研修の内容を講義と演習、協議等を組み合わせ、実践力を身につけさせることができるよう工夫した。また、常に受講者や社会のニーズに応えることができるよう、講師や内容の精選を行った。	生徒指導・教育相談中級研修会 H22 9回 109名 H23 9回 110名 H24 9回 162名 H25 9回 108名 H26 9回 117名 生徒指導・教育相談初級研修会 H22 3回 21名 H23 3回 12名 H24 3回 24名 H25 3回 85名 H26 3回 20名 学校教育相談コンサルテーション研修会 H22 2回 96名 H23 2回 85名 H24 2回 101名 H25 2回 97名 H26 2回 110名 特色あるさわやか相談室づくり研修会 H22 3回 66名 H23 3回 66名 H24 3回 66名 H25 3回 66名 H26 3回 61名	H22 A 208 169 H23 A 208 163 H24 A 190 157 H25 A 190 163 H26 A 190 128 計 986 780	学校教育相談コンサルテーション研修会を通して各学校の教育相談主任の役割や校種間連携を進め、教育相談体制の充実を図るとともに、生徒指導・教育相談初級、中級研修会、さわやか相談員の研修会を通して、相談活動の質の向上を図る。	教育センター (旧 教育研究所)
6	適応指導教室	継続		A	教育センター分室(リバーラ)において、不登校児童生徒への学校復帰を目指すための学習支援や体験活動等を実施した。	a	個に応じた目標を立て、学習活動や体験活動を行うことによって、自分自身に自信を持つことができたり、自分の進路について前向きに考えたりすることができた。	H22 A 37 25 H23 A 37 59 H24 A 69 61 H25 A 44 72 H26 A 67 38 計 254 255	学習支援や体験活動、人間関係づくりなどを通して、児童生徒一人一人のよりよい成長と自立を促し、学校復帰を目指すための支援を行っていく。	教育センター (旧 教育研究所)	
7	総合的な学習の時間の支援	継続		A	総合的な学習の時間について「特色ある学校づくり研修会」を実施した。小・中学校の代表が実践発表を行い、その発表をもとに校種間連携や地域との連携について情報交換を行った。	a	夏期休業中に悉皆による研修会を実施し、小・中学校の代表による実践発表をもとに、各校の取組についての情報交換を行った。校種間連携ごとにグループを分けたことで、近隣の学校との共通理解を図ることができた。	特色ある学校づくり研修会参加者 H22 53名 H23 50名 H24 55名 H25 55名 H26 54名	H22 A 20 20 H23 A 15 0 H24 A 10 0 H25 A 10 0 H26 A 0 0 計 55 20	平成27年度は希望者のみの研修となる。参加者が各学校の実践を持ち寄り、特色ある活動を広めるようにする。グループ討議の中で、年間指導計画について情報交換を行うとともに、小学校と中学校との連携活動や発達段階に応じた活動内容について考察していく。	教育センター
8	川越市教職員研修事業	拡充		A	川越市立学校(小・中・高・特別支援学校)の教職員を対象とした研修会を実施した。研修回数や内容の工夫・改善、見直しを図り、コースによる選択制を拡大することで参加意欲を向上させるとともに参加しやすい体制を整えた。	a	今日的な教育課題に対応するため、研修体系の見直しを行い、研修内容の整理と細分化を図った。その結果、様々なニーズに対応できる講座が増え、感想録からも高い評価を得ることができた。一人あたりの研修参加数は4.8回。奨励研修の満足度の平均は4.6である。	H22 104講座のべ6,362名参加 H23 106講座のべ7,243名参加 H24 110講座のべ7,312名参加 H25 112講座のべ7,177名参加 H26 111講座のべ6,161名参加	H22 A 4,608 3,264 H23 A 3,858 3,672 H24 A 3,835 3,470 H25 A 3,497 3,522 H26 A 3,386 2,709 計 19,184 16,637	ライフステージに合った研修を重視し(経験者研修等)、教職経験年数に応じた指導力の向上を図る。奨励研修の見直しを図り、幅広い実践的指導力の向上を目指す。	教育センター (旧 教育研究所)

9	少人数学級、少人数指導の充実	拡充	A	積極的な生徒指導を推進し、子どもたちの心の教育・学力向上・いじめの未然防止等、各学校における様々な課題を解決するため、市費による教員(オールマイティーチャーター)配置事業を実施した。校長の創意を生かした企画書に基づき、各学校の課題に応じて、市内の小学校2校に2名、中学校11校に11名(国語2名、社会1名、数学1名、理科4名、美術1名、保健体育2名)の市費による教員を配置した。	a	少人数学級のための臨時講師配置事業を進展させ、課題解決のための配置事業へと方向性を変更した25年度以降、各学校において、それぞれの課題に応じた効果を明らかにするため、報告書の改善を行った。その結果、生徒指導部会の開催回数増加と、その結果である生徒指導体制の強化、暴力行為の減少などの成果がみられるようになった。	臨時講師配置校数 17年度・・・5校 18年度・・・8校 19年度・・・8校 20年度・・・10校 21年度・・・5校 22年度・・・6校 23年度・・・9校 24年度・・・7校 25年度・・・10校 26年度・・・13校	H22	A	25,037	21,521	今後は、配置した学校での効果を検証しながら、必要とする学校に対し各課題に応じて教員を配置し、生徒指導体制の充実や学力向上に向け、子どもたち一人一人に応じたきめ細かな教育活動を推進する。	学校管理課
				H23	A	35,171	32,956						
								H24	A	28,121	26,569		
								H25	A	37,532	36,292		
								H26	A	46,179	43,657		
								計		172,040	160,995		
			A	全市立小・中学校に、県費による指導方法工夫・改善に伴う加配教員が配置され、少人数指導やチーム・ティーチングによる、個に応じたよりきめ細かな指導を行った。	a	全市立小・中学校に、県費による指導方法工夫・改善に伴う加配教員が配置され、少人数指導やチーム・ティーチングによる、個に応じたきめ細かな指導を積極的に実施し、確かな学力育成を図った。	県費による指導方法工夫・改善加配教員配置100%	H22	A	—	—	全市立小・中学校に、県費による指導方法工夫・改善に伴う加配教員が配置され、少人数指導やチーム・ティーチングによる、個に応じた指導をととして、基礎学力の定着を図る。	教育指導課
										H23	A		
								H24	A	—	—		
								H25	A	—	—		
								H26	A	—	—		
								計		0	0		
10	教育副読本の整備	継続	A	新学習指導要領の全面实施に対応し、地域や児童の実態を考慮した小学校3・4年生の社会科の副読本を整備した。	a	学習指導要領の改正に伴い、児童の思考力・判断力・表現力の意識を旨とし地域性や児童の実態を十分考慮した副読本を整備した。	小学校32校へ配布	H22	A	4,710	4,002	統計資料や写真資料等の見直し、差しかえ等を行い、よりよい副読本の整備を行っていく。	教育指導課
								H23	A	4,820	3,876		
								H24	A	4,688	3,806		
								H25	A	4,708	3,685		
								H26	A	4,497	4,015		
								計		23,423	19,384		
11	中学生社会体験事業(2-(1)-2の再掲)	拡充	A	川越市中学生社会体験事業推進委員会での協議のもとに中学生が地域のなかで活動することにより多くの人々とのふれあいを通して社会性や自立心を育むことができた。	a	川越市中学生社会体験事業推進委員会での協議を実施した。中学生が地域の中での活動が多くの人々とのふれあいを通して、勤労観や社会性・自立心を養うと共に、生徒一人一人が自分の生き方を見付け、たくましく豊かに生きる力を育むことができた。	H22	A	再掲	再掲	今年度も事業所の協力のもと、生徒の主體的、意欲的な活動につなげていきたい。これからの自分の進路選択に向けた行うべき点に気づける取り組みにする。	教育指導課	
							H23	A	再掲	再掲			
							H24	A	再掲	再掲			
							H25	A	再掲	再掲			
							H26	A	再掲	再掲			
							計		再掲	再掲			

12	国際理解教育	継続		A	国際理解教育の推進・充実を図るため、指導力の向上を目指した研修会を実施した。	a	国際理解教育の推進・充実及び指導力の向上を目指した研修会を実施することができた。また、授業研究会を通して異校種間の連携を深め、小学校外国語活動及び中・高等学校英語科において効果的な授業が展開できた。	国際理解教育研修会(第1回研修会は小・中・高・特別支援学校、第2・3回研修会は小・中・高等学校) H22年4回 のべ173名参加 H23年3回 のべ116名参加 H24年3回 のべ109名参加 H25年3回 のべ110名参加 H26年3回 のべ105名参加	H22 A 50 40 H23 A 50 25 H24 A 35 20 H25 A 35 20 H26 A 35 25 計 205 130	国際理解教育の推進・充実を図れるような研修会を実施していく。 授業研究会を通して、異校種間の連携を深め、小学校外国語活動及び中・高等学校英語科の授業において効果的な授業が展開できるような研修会を実施していく。	教育センター (旧 教育研究所)
13	情報教育	継続		A	児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、校務の効率化を図るため、情報機器操作能力の向上を目的とした教職員の研修会を実施した。 今年度も管理職対象の研修会や、地域の方々を対象にしたパソコン操作研修会を実施した。	a	児童生徒の情報活用能力を育成するとともに、校務の効率化を図るため、情報機器操作能力の向上を目的とした教職員の研修会を行った。また、管理職を対象にした研修会や、地域の方々を対象にしたパソコン操作研修会を行った。 さらに、初任者研修・5年経験者研修や保護者とともに考える研修会では、ネットトラブルの未然に防止するためのネットモラル研修を行った。	やさしいパソコン操作研修会(ワープロ・表計算)パソコンプレゼンテーション研修会(基本・応用)パソコンホームページ研修会(作成・更新) 授業に役立つパソコン活用研修会(ICT・情報モラル)、初任者研修、5年経験者研修、管理職のためのICT研修会、情報化推進リーダー研修会 H24研修会参加者のべ546名 地域対象研修会のべ13名 教育用コンピュータ更新6校(小) 電子黒板追加導入(小26校、中12校) H25研修会参加者のべ585名 地域対象研修会のべ7名 教育用コンピュータ更新24校(小) 校務用パソコン及び文書サーバー更新(小32校、中22校) H26研修会参加者のべ585名 地域対象研修会のべ6名	H22 A 119,704 115,665 H23 A 140,343 132,790 H24 A 131,979 104,714 H25 A 121,708 117,147 H26 A 135,159 135,159 計 648,893 605,475	それぞれの研修会の内容の見直しを図り、充実させ、授業において情報機器を活用した効果的な指導ができるような研修会を実施していく。また、電子黒板やデジタル教科書など、最新のデジタル機器やデジタルコンテンツに対応した研修を実施していく。 校内LANの整備に向けて、LANの効果等な活用の研究を進めていく。	教育センター (旧 教育研究所)
14	土曜子ども体験	継続	年21回	A	学校週5日制対応事業として、子どもに豊かな体験の場を提供するため、藍染めや鍍の着装、お正月飾りの作製等の体験を行った。毎月第二・三土曜日(8月を除く)を中心に実施した。21回実施。	a	体験者が体験を通じて歴史文化に対する理解を深め、感性を豊かにすることができたと考えられる。また、教室・講座の講師が規律と秩序を同時に教え、文化と教育の融合が図られた。	H22 年21回 H23 年22回 H24 年22回 H25 年21回 H26 年21回	H22 A 60 60 H23 A 60 78 H24 A 78 96 H25 A 96 102 H26 A 114 114 計 408 450	今後も、プログラムを見直し、よりニーズに合った内容を考えて実施していきたい。	博物館
15	子ども博物館教室	継続	年3回	A	子どもに博物館に親しんでもらうとともに、身近な川越の歴史や文化財への理解や関心を深めるための学習に取り組んだ。天候にも恵まれ、3回すべて実施することができた。	a	体験者が体験を通じて歴史文化に対する理解を深め、感性を豊かにすることができたと考えられる。また、教室・講座の講師が規律と秩序を同時に教え、文化と教育の融合が図られた。	H22 年3回 H23 年2回 H24 年3回 H25 年3回 H26 年3回	H22 A 18 24 H23 A 12 12 H24 A 12 24 H25 A 24 18 H26 A 18 18 計 84 96	1日かけてじっくり取り組めるプログラムとし、今後も川越の歴史、民俗、文化財等にかかわる内容で、毎年数種類更新して実施していく。	博物館
16	夏休み子ども体験	継続	年4回	A	夏季休業日を活用して学校教育と運動した学習の場として、ミニ灯笼作り、探検!となりのまちの博物館、ミニ縄文土器を作ろう、親子で木をつかって遊ぼうを行った。4回実施。	a	体験者が体験を通じて歴史文化に対する理解を深め、感性を豊かにすることができたと考えられる。また、教室・講座の講師が規律と秩序を同時に教え、文化と教育の融合が図られた。	H22 年3回 H23 年3回 H24 年3回 H25 年4回 H26 年4回	H22 A 12 — H23 A 12 — H24 A 12 — H25 A 12 12 H26 A 12 12 計 60 24	今後も、夏季休業日を利用して博物館に来館し、興味を持って取り組める内容を実施していく。	博物館

17	昔の遊び	継続	年2回	A	昔のいろいろな遊びを体験することを通して、当時の人々のくらしや文化に親しむことを目的にわなげやコマ回しやビーズを使ったアクセサリ作り等の体験を行った。2回実施	a	体験者が体験を通じて歴史文化に対する理解を深め、感性を豊かにすることができたと考えられる。また、教室・講座の講師が規律と秩序を同時に教え、文化と教育の融合が図られた。	H22 年2回 H23 年2回 H24 年2回 H25 年2回 H26 年2回	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	今後も、昔のいろいろな遊びを体験することを通して、当時の人々のくらしや文化に親しむことを目的にプログラムを組み、指導者として、市民ボランティアの協力を得て実施していく。	博物館
18	人権教育	継続		A	人権作文集「あけぼの」を毎年3、150部発行。「いのち・こころを大切にする絵画展」を3日間開催	a	計画通り人権文集「あけぼの」を発行できた。「いのち・こころを大切にする絵画展」も予定通り開催できた。	H22 絵画展入場者数192人 H23 絵画展入場者数262人 H24 絵画展入場者数176人 H25 絵画展入場者数165人 H26 絵画展入場者数202人	H22 A 455 358 H23 A 286 265 H24 A 284 351 H25 A 285 404 H26 A 365 391 計 1,675 1,769	市民一人ひとりの人権意識の高揚を図るため、人権作文「あけぼの」を3、150部発行予定。「いのち・こころを大切にする絵画展」を3日間開催予定。	地域教育支援課 (旧 生涯学習課)
19	人権啓発事業	継続	講演会参加者数 250人	A	講演会参加者数281名 啓発冊子等配布数1,355冊 啓発ビデオ貸出数16件 講演会実施回数1回 広報掲載回数4回 啓発用品の駅頭等配布数7,259個	a	①講演会の開催 ②市内の公的施設及び駅等啓発において啓発用品配布 ③ビデオを購入し、学校・企業へ貸出等により人権啓発を実施した。	講演会参加者数 H22:279名 H23:224名 H24:255名 H25:280名 H26:281名 啓発冊子等配布数 H22:1,416冊 H23:2,537冊 H24:1,490冊 H25:1,348冊 H26:1,355冊 啓発ビデオ貸出数 H22:61件 H23:43件 H24:18件 H25:9件 H26:16件 講演会実施回数 H22:1回 H23:1回 H24:1回 H25:1回 H26:1回 広報掲載回数 H22:12回 H23:12回 H24:4回 H25:4回 H26:4回 啓発用品の配布数 H22:6,421個 H23:6,636個 H24:8,603個 H25:8,212個 H26:7,259個	H22 A 1,654 1,090 H23 A 1,586 1,123 H24 A 1,912 1,587 H25 A 1,340 1,118 H26 A 1,288 1,032 計 7,780 5,950	①講演会の開催 ②市内の公的施設及び駅等啓発において啓発用品配布 ③ビデオを購入し、学校・企業へ貸出等により人権啓発を積極的に推進する。	人権推進課
20	学校部活動補助事業	継続		E	予算縮減のため、平成21年度で事業が終了した。	e	予算縮減のため、平成21年度で事業が終了した。		H22 E — — H23 E — — H24 E — — H25 E — — H26 E — — 計 0 0		教育指導課

21	公立学校施設の整備	拡充	公立学校施設の耐震化率 100%	E	平成24年度をもって、全学校施設の耐震化が完了した。	a	平成24年度をもって、全学校施設の耐震化が完了した。	耐震補強工事実施 校舎・体育館 H22:2校 H23:2校 H24:2校 校舎 H22:3校 H23:9校 H24:5校 体育館 H22:16校 H23:4校 全体 229棟 内訳 新耐震基準及び耐震化済み等 229棟 耐震補強工事未実施 0棟	H22 A 6,154,393 2,749,817 H23 A 3,093,982 1,826,665 H24 A 503,060 387,011 H25 E — — H26 E — — 計 9,751,435 4,963,493	老朽化した学校施設の整備のため、大規模改修工事やトイレ改修工事等を計画的に進めて行く。	教育財務課
22	育児関連講座	継続	10講座	A	子育て中の保護者を対象に、育児に関する情報・親子で楽しむプログラム・親子のふれあいを提供する講座を開催した。 8館、12講座 参加者延べ人数 956人	a	講座数について、目標を上回る事ができた。 講座を開設したことによって、親子のふれあいだけでなく親同士の交流や情報交換の場という効果も得ることができた。	H22 7館、14講座 参加者延べ人数 1,392人 H23 7館、13講座 参加者延べ人数 1,265人 H24 8館、15講座 参加者延べ人数 1,126人 H25 9館、12講座 参加者延べ人数 1,028人 H26 8館、12講座 参加者延べ人数 956人	H22 A 365 500 H23 A 414 594 H24 A 322 442 H25 A 299 248 H26 A 346 290 計 1,746 2,074	子育て中の保護者を対象に、育児に関する情報・親子で楽しむプログラム・親子のふれあいを提供する講座を開催する。	中央公民館
23	幼保小連絡懇談会の実施	継続	小学校32校 幼稚園32園 保育園33園	A	「幼保小連携の在り方」をテーマに幼稚園・保育園・小学校の教職員の参加のもと幼保小連絡懇談会を開催した。	a	幼児教育振興審議会で練り上げたテーマに沿って、幼保小連絡懇談会を毎年実施できた。授業参観後の懇親会では、テーマに沿った活発な意見交換がなされ、幼保小の連携が図れた。	幼保小連絡懇談会 参加園・校数 H22 幼32園保33園小32校 H23 幼30園保36園小32校 H24 幼32園保38園小32校 H25 幼32園保40園小32校 H26 幼31園保42園小32校	H22 A 84 78 H23 A 84 85 H24 A 91 42 H25 A 6 0 H26 A 0 0 計 265 205	今後も幼児教育振興審議会において幼児教育の振興について審議し、幼稚園・保育園・小学校等のさらなる連携と充実を図る。	教育指導課
24	川越市子ども読書活動推進計画第2次の策定・推進	拡充		A	家庭向け読書活動啓発リーフレット「自ら本に手を伸ばす子に」を小学校新入学児童の保護者に保護者会の折に配布した。年1回の司書教諭研修会、年4回の図書整理員研修会を実施し、資質の向上を図った。	a	司書教諭及び図書整理員への研修会を継続していることが資質の向上につながっている。	H22 A — — H23 A — — H24 A 132 61 H25 A 132 61 H26 A 124 62 計 388 184	第2次川越市子ども読書活動推進計画に基づき、学校、家庭、地域が一体となって子どもが読書に親しむ諸条件の整備充実にも努める。	教育指導課	
25	学校図書館図書の整備	拡充	整備率 100%	B	「学校図書館図書標準」の達成に向け、計画的な図書購入及び廃棄に努めた。 小学校 83.3% 中学校 100.6%	b	図書標準の平均達成率は、中学校では100%を満たしているが、小学校では80%台である。今後も計画的な図書購入及び廃棄に努めた。	図書標準達成率(前年度比) H24 小学校 78.0%(+3.2) 中学校 90.8%(+5.1) H25 小学校 80.6%(+2.6) 中学校 97.0%(+6.2) H26 小学校 83.3%(+2.7) 中学校 100.6%(+3.6)	H22 B 31,606 30,453 H23 B 31,916 30,617 H24 B 29,920 30,727 H25 B 30,650 30,591 H26 B 31,030 31,220 計 155,122 153,608	適正な廃棄作業と計画的な蔵書購入を行い、蔵書数の増加を図るとともに、質と利用価値の向上に努める。	教育指導課

26	小・中学生の読書活動の推進	継続	達成率 100%	A	読書習慣を形成するため、小学生対象の読書マラソンの実施、中学生対象の読書手帳の配布を行った。	a	読書冊数を増やし、読書マラソンカードや読書手帳の活用により、貸し出し数が伸びた。児童生徒への平均貸し出し数は、小学校で5.9冊、中学校は3.4冊増えている。	H22	A	318	280	第2次川越市子ども読書活動推進計画に基づき、読書推進に関わる諸策を進める。	教育指導課
								H23	A	318	318		
								H24	A	317	242		
								H25	A	318	256		
								H26	A	318	306		
								計		1,589	1,402		
								H23					
								H24					
								H25					
								H26					

【網掛け】重点施策

【平成26年度未達成状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

(単位:千円)

2-(3) 家庭や地域の教育力の向上

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度未達成状況	平成26年度の事業実績 【目標事業量に対する実績値】	後期計画達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)					平成27年度以降の方向性	所管課
							実績評価		既存統計データ		年度		
1	教育相談・就学相談事業	継続		A	相談者のニーズに応じて関係諸機関と連携し、臨床心理士のスーパーバイズを得ながら、より適切な相談活動を行うことができた。また、発達や就学に関する相談に応じた。	a	リベラで扱う相談件数、就学相談件数は、年々増加の傾向にある。その理由としては、相談施設としてリベラが周知されてきたこと、リベラでの相談活動が、学校や家庭において成果を上げていること等が挙げられる。また、特別支援教育についての関心が高まり、子供の実態やそれに合った支援の方法について客観的な見方や情報を求める傾向が見られる。	H22 ・相談件数のべ3,383件 ・川越市就学支援委員会(委員25名) H23 ・相談件数のべ2,991件 ・川越市就学支援委員会(委員25名) H24 ・相談件数のべ3,224件 ・川越市就学支援委員会(委員25名) H25 ・相談件数のべ3,359件 ・川越市就学支援委員会(委員24名) H26 ・相談件数のべ3,605件 ・川越市就学支援委員会(委員15名)	H22 A 2,485 2,179 H23 A 2,356 2,269 H24 A 2,071 2,676 H25 A 2,173 2,115 H26 A 1,811 1,507 計 10,896 10,766	(就学支援委員会報償金)+(相談協力員報償金)	いじめ・不登校、学習・発達、ことばの相談や就学に関する相談など、教育に関するあらゆる相談に応じていく。	教育センター (旧 教育研究所)	
2	不登校児童生徒保護者セミナー	継続		A	不登校児童生徒の保護者を対象に、不登校理解のためのセミナーを実施し、相談に応じた。	a	不登校児童生徒を抱えた保護者が、一堂に会し、子供の様子や生活の見直しなどについて、少人数で話し合うことにより、今後の目標を具体的に立ったり、前向きに取り組んでいくきっかけ作りとなったりした。	H22 3回実施 H23 3回実施 H24 3回実施 H25 3回実施 H26 3回実施	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0		年間3回実施し、それぞれ「子どもが登校をしぶったとき」「生活リズムづくり」「登校へのきっかけづくり」について考え、話し合う機会とする。	教育センター (旧 教育研究所)	
3	家庭教育学級	継続		A	市内小中学校54校のPTAに事業を委託し、それぞれのPTAが年5回以上の家庭教育学級を開講した。本事業により、家庭における教育力の充実に効果が見られた。	a	計画に基づき、全ての公立小中学校で家庭教育に関わる講座を実施できた。	各PTA5回以上実施。 H22 273回 H23 271回(のべ回数) H24 273回(のべ回数) H25 272回(のべ回数) H26 271回(のべ回数)	H22 A 2,160 2,160 H23 A 2,160 2,160 H24 A 2,160 2,160 H25 A 2,160 2,160 H26 A 1,890 1,890 計 10,530 10,530		多くの保護者が講座に出席できる環境づくりと、講座内容の充実化を図りながら、市内小中学校54校でPTA家庭教育学級を実施する。親の役割や子どもへの理解、人権教育など、PTA・学校ならではの講座を実施していく。	地域教育支援課 (旧 生涯学習課)	
4	家庭教育講座	拡充	25講座	A	家庭の教育力を高めるため、乳幼児の心と体をはぐくむ親のための講座を開催した。 17公民館、27講座 参加者延人数 3,354人	a	講座数について目標を上回ることができた。講座を開講したことによって、単に学習するというだけでなく、参加者の交流により子育ての悩みや不安の解消にも役に立った。	H22 17公民館、32講座 参加者延人数 3,814人 H23 17公民館、28講座 参加者延人数 3,816人 H24 17公民館、29講座 参加者延人数 3,881人 H25 17公民館、28講座 参加者延人数 3,848人 H26 17公民館、27講座 参加者延人数 3,354人	H22 A 1,834 1,430 H23 A 1,699 1,395 H24 A 1,822 1,401 H25 A 1,669 1,488 H26 A 1,651 1,252 計 8,675 6,966		家庭の教育力を高めるため、乳幼児の心と体をはぐくむ親のための講座を開催する。	中央公民館	

5	総合型地域スポーツクラブ	拡充		3クラブの設置、1クラブの育成。 芳野スポーツクラブ、川越山田スポーツクラブともに、地域住民のために自主的な運営を行い、多くの人々がクラブの事業に参加した。 川越公園クラブについては、充実した施設設備を活用して、クラブ事業、スクール事業を展開した。 福原地区では、「福原地区総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」を立ち上げた。また、各事業(ミニバス、走り方教室等)を開催し、平成27年度末の設立総会に向けて準備を進めてきた。	A	a	誰もが、いつでも、どこでもスポーツに取り組めるようにするため、各地域で自主的に運営する総合型地域スポーツクラブの設置・自立を支援してきた。 特に、福原地区における「総合型地域スポーツクラブ」の設立を目指し、準備委員会を立ち上げた。準備委員会では、先進クラブの視察やスポーツイベントを開催し、地域住民のスポーツに対するニーズを探ってきた。その結果、平成27年度の活動内容が明確になり、27年度末の「総合型地域スポーツクラブ」の設立に向けた活動ができるようになった。その他、芳野スポーツクラブ、川越山田スポーツクラブにおいても、地域住民のニーズに応じた活動を行っている。	H22 2クラブ H23 2クラブ H24 3クラブ H25 3クラブ H26 4クラブ(1クラブ育成)	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>B</td><td>250</td><td>250</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>250</td><td>250</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>750</td><td>500</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>500</td><td>500</td></tr> <tr><td>H26</td><td>A</td><td>750</td><td>750</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>2,500</td><td>2,250</td></tr> </table>	H22	B	250	250	H23	A	250	250	H24	A	750	500	H25	A	500	500	H26	A	750	750	計		2,500	2,250	福原地区では、平成26年度に「福原地区総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会」を設置し、クラブ設立に向け準備を進めてきた。本年度末の設立総会に向けて、各事業の回数を増やし、教室化するなど定着を図っていく。 南古谷地区において、地域住民から設立に向けた話をいただいております。スポーツクラブ設置に向けた準備を地域住民と県体育協会と連携し進めて行く。	スポーツ振興課 (旧 市民スポーツ課)
H22	B	250	250																																
H23	A	250	250																																
H24	A	750	500																																
H25	A	500	500																																
H26	A	750	750																																
計		2,500	2,250																																
6	スポーツ少年団	継続		体育祭等における単位団の交流、指導者を対象とした研修会の実施等を通してその資質能力の向上を図った。また、体カテスト会、体育祭、新春マラソンを開催し、子供たち個々の体力向上を図ることができた。	A	a	体育祭等における単位団の交流、指導者を対象とした研修会の実施等を通してその資質能力の向上を図ることができた。また、体カテスト会、体育祭、新春マラソンを毎年開催することにより、子供たち個々の体力向上を図ることができた。	H22 体カテスト会1,146名 体育祭1,387名 新春マラソン1,059名 H23 体カテスト会1,161名 体育祭1,615名 新春マラソン1,163名 H24 体カテスト会1,271名 体育祭1,628名 新春マラソン1,252名 H25 体カテスト会1,418名 体育祭1,608名 新春マラソン1,332名 H26 体カテスト会1,249名 体育祭1,697名 新春マラソン1,378名	<table border="1"> <tr><td>H22</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H23</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H24</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H25</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>H26</td><td>A</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>計</td><td></td><td>0</td><td>0</td></tr> </table>	H22	A	—	—	H23	A	—	—	H24	A	—	—	H25	A	—	—	H26	A	—	—	計		0	0	継続	スポーツ振興課 (旧 市民スポーツ課)
H22	A	—	—																																
H23	A	—	—																																
H24	A	—	—																																
H25	A	—	—																																
H26	A	—	—																																
計		0	0																																

7	学校体育施設開放事業	継続		A	学校開放委員会を中心に小学校32校、中学校20校で体育施設開放を実施し、多くの地域住民がスポーツ・レクリエーション活動を楽しむことができた。この他、霞ヶ関北小のプール開放(8月)、高階西小・山田小の学校プール開放(7月・8月)を行った。	a	学校開放委員会を中心に小学校32校、中学校20校で体育施設開放を実施し、多くの地域住民がスポーツ・レクリエーション活動を楽しむことができた。この他、霞ヶ関北小のプール開放、市内小学校2校のプールを開放する学校プール開放により、地域住民の方が水泳の楽しさを味わうことができた。	H22 学校体育施設開放参加者数396,728名。霞ヶ関北小プール開放参加者数4,279名。山田小・南古谷小プール開放参加者数111名。 H23 学校体育施設開放参加者数402,752名。霞ヶ関北小プール開放参加者数3,507名。牛子小・高階西小・芳野小プール開放参加者数186名。 H24 学校体育施設開放参加者数407,529名。霞ヶ関北小プール開放参加者数3,200名。牛子小・高階西小・福原小プール開放参加者数168名。 H25 学校体育施設開放参加者数426,374名。霞ヶ関北小プール開放参加者数1,821名。牛子小・山田小プール開放参加者数201名。 H26 学校体育施設開放参加者数405,712名。霞ヶ関北小プール開放参加者数1,259名。高階西小・山田小プール開放参加者数206名。	H22 A 13,583 12,036 H23 A 11,550 11,092 H24 A 11,480 10,469 H25 A 11,264 10,769 H26 A 10,623 10,313 計 58,500 54,679	継続	スポーツ振興課 (旧 市民スポーツ課)
8	人材バンク	継続		A	地域子どもサポート事業では、各地区子どもサポート委員会が、人材確保のため、登録を行った。	a	各実績データから、サポート委員の人数が着実に増え、活動内容の充実が図られている。	H22 子どもサポート委員数569人(前年比103.1%) H23 子どもサポート委員数572人(前年比100.5%) H24 子どもサポート委員数607人(前年比106.1%) H25 子どもサポート委員数615人(前年比101.3%) H26 子どもサポート委員数637人(前年比103.5%)	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	子どもサポート委員の増加と活用のための支援に取り組んでいく。	地域教育支援課 (旧 生涯学習課)
9	学生ボランティアの活用	継続		A	各地区の子どもサポート事業のなかで、学生ボランティアを活用した学習支援事業が行われた。	a	各実績データから、学習支援事業数や事業への参加者人数が着実に増加し、活動内容の充実が図られている。	学生ボランティアを活用した学習支援事業の全事業数 H22 17事業 H23 21事業 H24 17事業 H25 18事業 H26 22事業 事業の参加者合計人数 H22 約600人 H23 815人 H24 1,018人 H25 1,272人 H26 1,533人	H22 A — — H23 A — — H24 A — — H25 A — — H26 A — — 計 0 0	地域の大学・高校との連携を進めて、学生ボランティアによる学習支援事業を進めていく。	地域教育支援課 (旧 生涯学習課)

10	エコチャレンジファミリー認定事業	継続	認定件数 2,524件 (H32までの 目標事業量)	A	・省エネナビコース:3件認定 ・簡易電力計コース:8件認定 ・省エネ家計簿コース:3件認定 ・省エネワークブックコース: 116件認定 平成26年度までに、述べ 1,504件の家族をエコチャレン ジファミリーとして認定してい る。	a	各種機材を貸出し、電力を見 える化することで、省エネに ついて身近に感じてもらうこ とができた。	省エネナビコース(累計:134 件認定) H22:9件認定 H23:0件認定 H24:6件認定 H25:2件認定 H26:3件認定 簡易電力計コース(累計:345 件認定) H22:16件認定 H23:93件認 定 H24:35件認定 H25:6件認定 H26:8件認定 省エネ家計簿コース(累計:95 件認定) H22:5件認定 H23:0件認定 H24:3件認定 H25:1件認定 H26:3件認定 省エネワークブックコース(累 計930件認定) H22:122件認定 H23:112件 認定 H24:55件認定 H25:102件 認定 H26:116件認定 ゴールド・エコチャレンジファミ リ(累計:35件認定) H22:4件認定 H23:0件認定 H24:2件認定 H25:0件認定 H26:1件認定	H22 A 47 17 H23 A 75 60 H24 A 44 43 H25 A 27 20 H26 A 43 42 計 236 182	省エネナビコース、簡易電力 計コース、省エネワークブッ クコースを継続し、省エネの 取り組みを推進する。	環境政策課
11	市民環境調査	継続	開催回数 (年度):1回	A	「気温等観測調査」を実施した。 (1回実施。①自宅付近での調 査13人②学校における定点観 測5校③まち歩き気温等観測調 査8人)	a	市民とともに調査を行うことによ り、幅広い情報の収集を行うこ とが出来た。また、参加した市 民の環境意識の向上にもつな げることが出来た。	H22:1回実施 H23:1回実施 H24:1回実施 H25:実施なし H26:1回実施	H22 A 74 61 H23 A 16 12 H24 A 65 41 H25 D 26 0 H26 A 79 42 計 260 156	市民参加型の環境調査を1 回実施予定。	環境政策課
12	星空観察の集い	継続	開催回数 (年度):2回	A	夏期を7月に実施し(参加者数4 8人)、冬期を1月に実施した (参加者数30人)。	a	星空を観察するという身近な方 法を通じて、大気環境の状態を 調査し、大気環境保全の重要性 を考える機会を作ることが出来 た。	H22:2回実施 H23:2回実施 H24:2回実施 H25:2回実施 H26:2回実施	H22 A 58 52 H23 A 58 24 H24 A 58 39 H25 A 47 41 H26 A 48 42 計 269 198	年2回実施予定。	環境政策課
13	環境展inさんぱく	継続	開催回数 (年度):1回	A	H26年度より、さんぱくからつ ばさ館まつりへ出展先を変 更。温暖化対策啓発パネル の掲示及び自転車発電機を 設置し、来場者に発電の体 験してもらった。来場者数、 約200名。	a	イベントへの出展を通じて、 多くの来場者に、温暖化対策 に対する啓発を行うことがで きた。	参加者数 平成18年度623名 平成19年度284名 平成20年度786名 平成21年度765名 平成22年度台風により中止 平成23年度1,000名 平成24年度600名 平成25年度台風により中止 平成26年度約200名 (つばさ館まつり)	H22 D — — H23 A — — H24 A — — H25 D — — H26 A 20 18 計 20 18	つばさ館まつりにおいて、市 民参加型のブースを出展し、 省エネ等について体験しても らうことで、温暖化対策の啓 発を推進する。	環境政策課

14	夏休み親子リサイクル体験ツアー	継続		A	つばさ館にてリサイクル講座「おもちゃの病院の親子でペットボトルマラカスづくり講座」を実施し、1日で28名が参加した。	a	名称を「夏休み親子リサイクル講座」に改め、内容をリニューアルしたものを実施。これにより、ごみの減量・分別、3Rの大切さを親子で共に認識してもらい、環境への関心を高める機会を提供することができた。	H21 2日で計43名参加。 H22 2日で計26名参加。 H23 東日本大震災により施設が一部破損したことや、節電対応のため中止。 H24 2日で計24名参加。 H25 2日で計86名参加。 H26 1日で計28名参加。	H22 A 6 6 H23 D 2 — H24 A 0 0 H25 A 6 6 H26 A 6 6 計 20 18	年度1回以上開催予定。 (平成27年度はペットボトル万華鏡づくり講座を予定)	資源循環推進課
15	市民の森	継続		A	(1)維持管理 清掃業務委託(月2~3回)、除草業務委託(年2~3回)、剪定、枯損木処理(随時) (2)施設修繕 第7号、10号施設修繕工事	a	市民の森の利用者が安全、快適に利用ができるよう造園業者による除草、剪定業務、シルバー人材センター等による清掃業務を適期に行うことができた。また、破損した外柵等の施設の修繕についても、適切に行うことができた。	H22:8箇所 H23:8箇所 H24:8箇所 H25:8箇所 H26:8箇所	H22 A 7,836 6,834 H23 A 7,127 6,314 H24 A 6,111 6,070 H25 A 5,687 5,431 H26 A 5,510 5,678 計 32,271 30,327	散歩や休憩で利用されるほか、子供たちの自然学習の場としても利用されている。良好な自然環境を保つために、定期的な維持管理と、不都合箇所の修繕を行っていく。新規指定については、施設整備に経費が嵩むこともあり、慎重に候補地を選定する必要がある。	環境政策課
16	こどもエコクラブ	継続	イベント開催回数(年度):2回	A	8月に研修会(内容:さいたま水族館見学等)、2月に発表会(内容:1年間のクラブ活動を報告)を実施した。	a	こどもたちが主体的に行う環境保全活動や環境学習を支援することにより、環境に関する理解を深め、環境を大切に思う心を育成することが出来た。	H22:2回実施 登録クラブ数 5クラブ・58会員 H23:2回実施 登録クラブ数 4クラブ・54会員 H22:2回実施 登録クラブ数 5クラブ・58会員 H24:2回実施 登録クラブ数 4クラブ・192会員 H25:2回実施 登録クラブ数 4クラブ・157会員 H26:2回実施 登録クラブ数 5クラブ・173会員	H22 A 111 49 H23 A 93 95 H24 A 114 67 H25 A 109 65 H26 A 105 71 計 532 347	年2回実施予定。	環境政策課
17	エコチャレンジスクール	継続		A	川越市内小・中・高・特別支援学校の全56校がエコチャレンジスクール認定校となり、各学校において工夫した取組を行った。実践報告書を作成し、市内各学校に配布した。	a	小・中・高・特別支援学校が毎年認定、申請更新をし、各校共に特色ある取組を実践している。また、夏期研修会において、各校の取組について情報交換等を行った。	エコチャレンジスクール認定校 H22 認定申請校19校 継続更新校37校 H23 認定申請校19校 継続更新校37校 H24 認定申請校18校 継続更新校38校 H25 認定申請校19校 継続更新校37校 H26 認定申請校19校 継続更新校37校	H22 A 165 35 H23 A 120 34 H24 A 53 34 H25 A 35 34 H26 A 41 45 計 414 182	川越市内小・中・高・特別支援学校の全56校がエコチャレンジスクール認定事業に取り組む。活動内容をまとめた実践報告書を作成し、市内各学校に配布する。	教育センター (旧 教育研究所)

(3)基本目標3 子育ての喜びを実感し、子どもとともに成長できる機会の充実

【網掛け】重点施策

【平成26年度末達成状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

3-1) 親の学びの機会の充実

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度末達成状況	平成26年度の事業実績【目標事業量に対する実績値】	後期計画達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)				平成27年度以降の方向性	所管課
							実績評価		既存統計データ			
1	両親学級(1-1)-13の再掲	拡充		A	妊婦とその夫を対象に育児、栄養、歯科についての正しい知識を普及し、妊娠中の不安の解消と父親の育児参加を支援した。	a	妊娠期や出産後に必要な情報を提供することで、妊娠中や産後の不安の解消が図れた。また、父親の育児参加の必要性の周知が図れた。	プレバパママスクール H22:5回 102組 200人(夫再掲98人) H23:6回 129組 257人(夫再掲126人) H24:6回 129組257人(夫再掲127人) H25:6回 112組220人(夫再掲109人) H26:6回 93組181人(夫再掲88人)	H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	妊婦とその夫を対象に育児、栄養、歯科についての正しい知識を普及し、妊娠中の不安の解消と父親の育児参加を支援する。	健康づくり支援課	
2	育児関連講座(2-2)-22の再掲	継続	10講座	A	子育て中の保護者を対象に、育児に関する情報・親子で楽しむプログラム・親子のふれあいを提供する講座を開催した。8館、12講座 参加者延べ人数 956人	a	講座数について、目標を上回る事ができた。講座を開設したことによって、親子のふれあいだけでなく親同士の交流や情報交換の場という効果も得ることができた。	H22 7館、14講座 参加者延人数 1,392人 H23 7館、13講座 参加者延人数 1,265人 H24 8館、15講座 参加者延人数 1,126人 H25 9館、12講座 参加者延人数 1,028人 H26 8館、12講座 参加者延人数 956人	H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	子育て中の保護者を対象に、育児に関する情報・親子で楽しむプログラム・親子のふれあいを提供する講座を開催する。	中央公民館	
3	家庭教育講座(2-3)-4の再掲	拡充	25講座	A	家庭教育力を高めるため、乳幼児の心と体をはぐくむ親のための講座を開催した。17公民館、27講座 参加者延人数 3,354人	a	講座数について目標を上回ることができた。講座を開設したことによって、単に学習するというだけでなく、参加者の交流により子育ての悩みや不安の解消にも役に立った。	H22 17公民館、32講座 参加者延人数 3,814人 H23 17公民館、28講座 参加者延人数 3,816人 H24 17公民館、29講座 参加者延人数 3,881人 H25 17公民館、28講座 参加者延人数 3,848人 H26 17公民館、27講座 参加者延人数 3,354人	H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	家庭教育力を高めるため、乳幼児の心と体をはぐくむ親のための講座を開催する。	中央公民館	
4	市民との協働による父親育児講座	新規	参加者数年30組	E	父親向けの子育てサロン等が公民館でも実施されていることから、こども政策課としては講座を実施せずに、埼玉県が作成した「イクメンの素」(育児初心者の父親向けの育児のヒント集)の閲覧しやすい環境づくりなどで、父親の育児サポートをした。	a	平成22年度から24年度まで、市民活動団体との協働事業として、具体的に活用できる内容で講座を実施したことにより、子育ての楽しさを実感し、育児への関心を高めるとともに、父親の育児参加を促進することができた。	H22:2日間で延べ26組、73人の参加 H23:2日間で延べ22組、38人の参加 H24:2日間で延べ32組、73人の参加 H25:講座は未実施 H26:講座は未実施	H22 A 66 66 H23 A 66 66 H24 A 66 66 H25 E — — H26 E — — 計 198 198	埼玉県が作成した「イクメンの素」(育児初心者の父親向けの育児のヒント集)や「チビタビ」(お父さんとチビがチビっとタビする埼玉ガイドブック)の閲覧しやすい環境をつくる。	こども政策課 (H24年度まで:子育て支援課)	

【網掛け】重点施策

【平成26年度未達成状況】A:順調 B:やや遅れている C:遅れている D:当該年度予定なし E:終了

【後期計画達成状況】a:順調 b:やや遅れている c:遅れている d:未実施 e:終了

※再掲事業は予算額・決算額非表示

3-(2) 親の社会参画の機会の充実

(単位:千円)

No.	事業名	目標	目標事業量	平成26年度未達成状況	平成26年度の事業実績【目標事業量に対する実績値】	後期計画達成状況	後期計画事業実績(平成26年度の決算額は決算見込額)				平成27年度以降の方向性	所管課	
							実績評価		既存統計データ				年度
1	地域子育て支援拠点事業(5-(1)-5に掲載)	拡充	25箇所	A	子育て支援拠点4箇所設置【計18箇所】 既存の子育て支援拠点の周知徹底のため、広報川越への掲載、子育て支援施設一覧のチラシのリニューアル等を行った。地域子育て支援センターを中心に連絡会議を開催し、施設間の情報共有を図った。また、平成27年度よりウエスタ川越内に川越市子育て支援センターを開設することに向け、法整備等を行った。	a	子育て支援拠点の設置は、市内18箇所を達成し、保護者の子育ての不安感を緩和すること、子どもの健やかな育ちを支援することに役立った。 ※「川越市子ども・子育て支援事業計画」策定時の見直しにおいて、平成31年度までに25箇所の設置を目標としたため、設置箇所数としては概ね達成している。 H22 子育て支援センター(公立1箇所、法人2箇所) つどいの広場(公立1箇所、法人6箇所) 計10箇所を実施。 H23 子育て支援センター(公立1箇所、法人2箇所) つどいの広場(公立1箇所、法人9箇所) 計13箇所を実施。 H24 子育て支援センター(公立1箇所、法人2箇所) つどいの広場(公立1箇所、法人10箇所) 計14箇所を実施。 H25 子育て支援センター(公立1箇所、法人2箇所) つどいの広場(公立1箇所、法人10箇所) 計14箇所を実施。 H26 子育て支援センター(公立1箇所、法人2箇所) つどいの広場(公立2箇所、法人13箇所) 計18箇所を実施。				H22 B 再掲 再掲 H23 B 再掲 再掲 H24 B 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	川越市子育て支援センター(ウエスタ川越内)を当事業の統括的な役割に位置付け、平成28年度の利用者支援事業の開始に向けた本格的な整備を行っていく。 社会福祉法人等が運営主体の拠点に対しては、従前の補助金交付から業務委託へと変更し、平成27年度には2施設増設予定である。法人等へ業務委託をするにあたり、川越市としての当事業の実施内容の方向性をより具体的に示していくこと、及び利用率の上がらない拠点に対する適切な改善策を見つけていくこと等に努めていく。	こども育成課(H24年度まで:保育課)
2	家庭教育学級(2-(3)-3の再掲)	継続		A	市内小中学校54校のPTAに事業を委託し、それぞれのPTAが年5回以上の家庭教育学級を開講した。本事業により、家庭における教育力の充実に効果が見られた。	a	計画に基づき、全ての公立小中学校で家庭教育に関する講座を実施できた。 各PTA5回以上実施。 H22 273回 H23 271回(のべ回数) H24 273回(のべ回数) H25 272回(のべ回数) H26 271回(のべ回数)				H22 A 再掲 再掲 H23 A 再掲 再掲 H24 A 再掲 再掲 H25 A 再掲 再掲 H26 A 再掲 再掲 計 再掲 再掲	多くの保護者が講座に出席できる環境づくりと、講座内容の充実化を図りながら、市内小中学校54校でPTA家庭教育学級を実施する。 親の役割や子どもへの理解、人権教育など学校・PTAならではの学びを提供していく。	地域教育支援課(旧 生涯学習課)
3	イベント等への参加促進	拡充		B	全庁的にイベント等の際に託児について配慮するよう文書で通知した。こども政策課において実施した会議やイベントの際には託児を設け子育て中の親の参加を促進した。	b	こども政策課(子育て支援課)が開催する会議やイベント等の際には必ず託児を設けて周知し、子育て中の親の社会参画の機会を提供することができたが、全庁的には十分に配慮されない状況もあった。 こども政策課(子育て支援課)の会議 H22:託児7回実施 H23:託児4回実施 H24:託児3回実施 H25:託児1回実施 H26:託児7回実施				H22 B — — H23 B — — H24 B — — H25 B — — H26 B — — 計 0 0	会議、イベント等の際に託児を設けることにより、子育て中の親の社会参画の機会を提供する。また、各課が託児に取り組みやすいように案内していく。	こども政策課(H24年度まで:子育て支援課)